

ラサール・グローバルREITファンド (毎月分配型)

追加型投信／内外／不動産投信 自動けいぞく投資適用

本書は「交付目論見書」と「請求目論見書」を合冊しております。

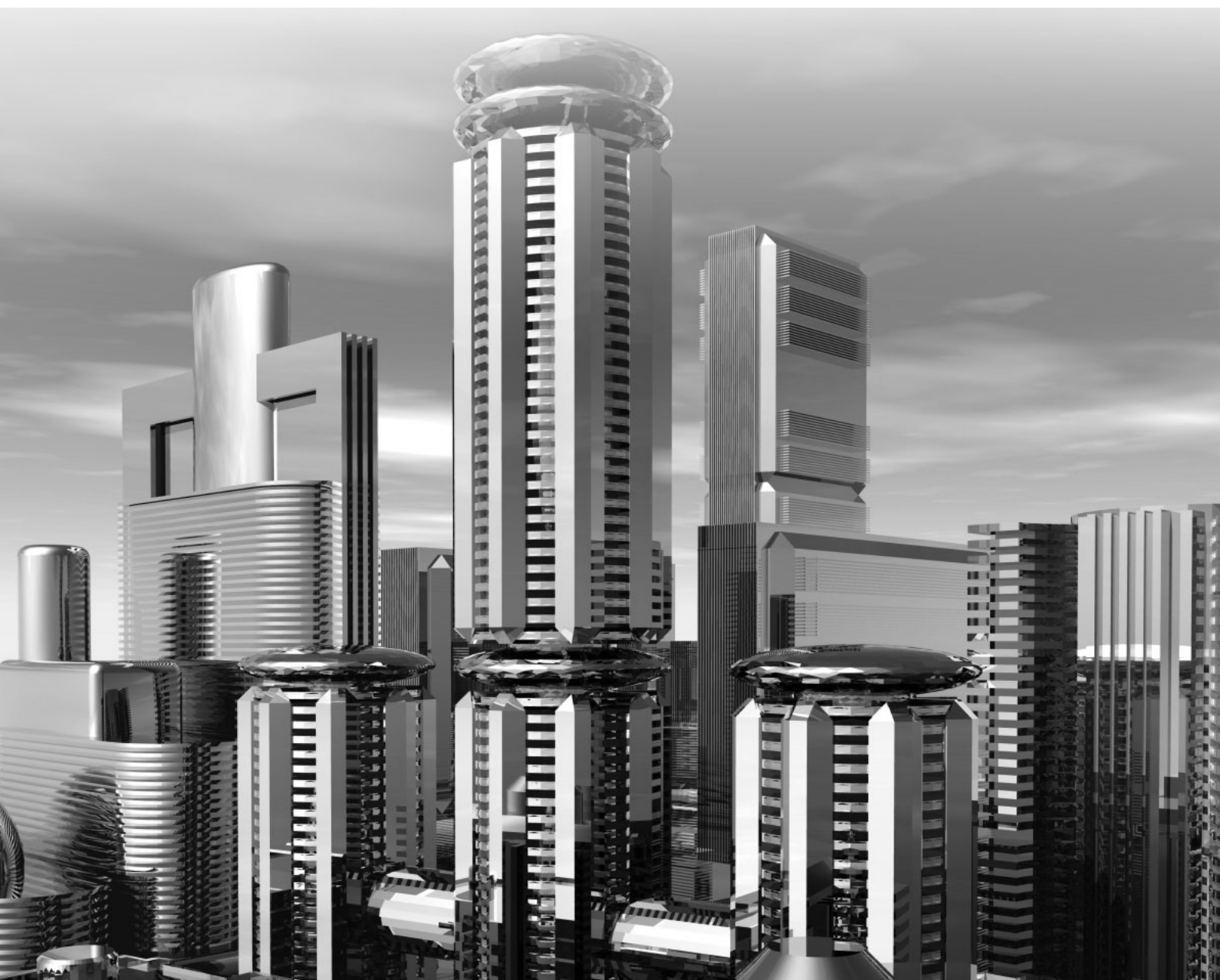


設定・運用は

日興アセットマネジメント

ラサール・グローバルREITファンド (毎月分配型)

追加型投信／内外／不動産投信 自動けいぞく投資適用



設定・運用は

日興アセットマネジメント

本書は金融商品取引法第13条の規定に基づく目論見書です。

「ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)」「マザーファンドを含みます。)は、主に投資信託証券に投資を行ない、投資対象とする投資信託証券は、主に不動産など値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。

投資信託は、金融機関の預金や保険契約とは商品性が異なります。

投資信託は、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。

投資信託は、元金および利回り保証のいずれもありません。

投資信託をご購入されたお客様は、投資した資産の価値の減少を含むリスクを負います。

この目論見書により行なう「ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)」の募集については、委託会社は、金融商品取引法(昭和23年法第25号)第5条の規定により有価証券届出書を平成22年4月5日に関東財務局長に提出しており、平成22年4月6日にその効力が発生しております。

当該有価証券届出書「第三部 ファンドの詳細情報」の内容を記載した投資信託説明書(請求目論見書)については、販売会社にご請求いただければ当該販売会社を通じて交付いたします。なお、投資信託説明書(請求目論見書)をご請求された場合は、その旨をご自身で記録しておくようにしてください。

「ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)」は、課税上は株式投資信託として取り扱われます。

基準価額、販売会社などにつきましては、以下の委託会社の照会先にお問い合わせください。

日興アセットマネジメント株式会社

ホームページ アドレス <http://www.nikkoam.com/>

コールセンター 電話番号 0120-25-1404

午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

下記の事項は、この投資信託(以下「当ファンド」といいます。)をお申込みされる投資家の皆様にあらかじめ、ご確認いただきたい重要な事項としてお知らせするものです。

お申込みの際には、下記の事項および投資信託説明書(交付目論見書)の内容を十分にお読みください。

記

当ファンドのリスクについて

- ・当ファンドは、主に不動産を実質的な投資対象としますので、不動産の価格の下落や、不動産の市況の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。
- ・当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「価格変動リスク」、「流動性リスク」、「信用リスク」および「為替変動リスク」などがあります。

詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドのリスク」をご覧ください。

当ファンドの手数料などについて

お申込時、ご換金(解約)時にご負担いただく費用

申込手数料 (1口当たり)	基準価額に対し3.15%(税抜3%)以内 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
換金(解約)手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用

信託報酬	純資産総額に対し年率1.575%(税抜1.5%) この他に、投資対象とする「世界REITマザーファンド」の主要投資対象である不動産投信には運用などに係る費用がかかりますが、投資する不動産投信の銘柄は固定されていないため、事前に料率、上限額などを表示することができません。
監査費用	純資産総額に対し 年率0.00945%(税抜0.009%)以内
売買委託手数料など*	・組入有価証券の売買委託手数料 ・外貨建資産の保管などに要する費用 ・借入金の利息 ・立替金の利息 など

詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「費用・税金」をご覧ください。

*売買委託手数料などについては、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することができません。

当ファンドの手数料などの合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間などに応じて異なりますので、表示することができません。

目 次

基本情報について

ファンドの概要	1
商品分類および属性区分	3

運用の内容について

ファンドの特色	5
投資方針	9
投資方針	
投資対象	
配分方針	
投資制限	
ファンドのリスク	12
ファンドの仕組み・体制	14
ファンドの仕組み	
運用体制・リスク管理体制	

手続きと費用について

取得申込み手続き	19
換金手続き	21
費用・税金	22

運営方法について

管理および運営	27
基準価額	
償還	
信託約款の変更	
異議の申立て	
公告	
その他	

運用の状況について

ファンドの運用状況	34
財務ハイライト情報	39

その他

約款	41
用語集	52

ファンドの概要

ファンドの名称	ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型) (以下「ファンド」といいます。)
商品分類	追加型投信 / 内外 / 不動産投信 ▶ 詳しくは、後述の『商品分類および属性区分』をご覧ください。
ファンドの目的	安定した収益の確保と中長期的な信託財産の成長を目標として運用を行ないます。
主な投資対象	「世界REITマザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。 ▶ 詳しくは、後述の『投資対象』をご覧ください。
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> ・投資信託証券、短期社債等、コマーシャル・ペーパーおよび指定金銭信託以外の有価証券への直接投資は行ないません。 ・外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。 ▶ 詳しくは、後述の『投資制限』をご覧ください。
主なリスク	<ul style="list-style-type: none"> ・価格変動リスク ・流動性リスク ・信用リスク ・為替変動リスク ▶ 詳しくは、後述の『ファンドのリスク』をご覧ください。
信託報酬	純資産総額に対し年率1.575%(税抜1.5%) この他に、投資対象とする「世界REITマザーファンド」の主要投資対象である不動産投信には運用などに係る費用がかかりますが、投資する不動産投信の銘柄は固定されていないため、事前に料率、上限額などを表示することができません。 ▶ 詳しくは、後述の『費用・税金』をご覧ください。
信託期間	無期限(平成16年3月26日設定) ▶ 詳しくは、後述の『償還』をご覧ください。
決算日	毎月5日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎決算時に、分配金額は、委託会社が決定するものとし、原則として、安定した分配を継続的に行なうことをめざします。 ▶ 詳しくは、後述の『分配方針』をご覧ください。
運用報告書の作成	委託会社は、年2回(1月、7月)および償還後に運用報告書を作成し、あらかじめ届出を受けた住所に販売会社よりお届けします。

商品内容を充分にご理解のうえ、お申込みいただきますようお願い申し上げます。

基本情報について

取得・換金(解約)に関して

取得・解約取扱時間	原則として、販売会社の営業日の午後3時まで
取得・解約 申込不可日	販売会社の営業日であっても、取得申込日・解約請求日が下記のいずれかに該当する場合は、取得の申込み・解約請求の受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ・ニューヨーク証券取引所の休業日 ・ニューヨークの銀行休業日 ・オーストラリア証券取引所の休業日
申込価額	取得申込受付日の翌営業日の基準価額
申込手数料	販売会社が定めるものとします。申込手数料率につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。 ・販売会社における申込手数料率は3.15%(税抜3%)が上限となっております。
申込単位	販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。
申込代金の支払い	販売会社が指定する日までにお支払いください。
解約価額	解約請求受付日の翌営業日の基準価額
解約手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。
解約単位	1口単位 販売会社によって異なる場合がありますので、詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
解約代金の支払い	原則として、解約請求受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

主な用語の解説

- 信託報酬(しんたくほうしゅう)
投資信託の運用や管理の対価として、委託会社、受託会社、販売会社が信託財産の中から受け取る報酬のことをいいます。
- 運用報告書(うんようほうこくしょ)
投資家に対して、運用状況(期中の運用経過、組入有価証券の内容および有価証券の売買状況など)に関する情報を報告する書類のことです。
- 信託財産留保額(しんたくざいさんりゅうほがく)
投資信託を解約される投資家の解約代金から差し引いて、信託財産に繰り入れる金額のことです。

➡ 本書で用いている専門的な用語については、後述の『用語集』をご覧ください。

商品分類および属性区分

商品分類

単位型投信・追加型投信	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型投信	国内	株式 債券
追加型投信	海外	不動産投信 その他資産 ()
	内外	資産複合

(注)当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

追加型投信

一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行なわれ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。

内外

目論見書または投資信託約款において、国内および海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。

不動産投信

目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

基本情報について

属性区分

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル (含む日本)		
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ()	年2回	日本		
	年4回	北米		
	年6回 (隔月)	欧州	ファミリーファンド	あり ()
	年12回 (毎月)	アジア		
	年12回 (毎月)	オセアニア		
不動産投信	年12回 (毎月)	中南米		
その他資産 (投資信託証券(不動産投信))	年12回 (毎月)	アフリカ	ファンド・オブ・ファンズ	なし
	日々	中近東 (中東)		
資産複合 () 資産配分固定型 資産配分変更型	その他 ()	エマージング		

(注)当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

その他資産(投資信託証券(不動産投信))

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、不動産投信に投資を行いません。よって、商品分類の「投資対象資産(収益の源泉)」においては、「不動産投信」に分類されます。

年12回(毎月)

目論見書または投資信託約款において、年12回(毎月)決算する旨の記載があるものをいいます。

グローバル(含む日本)

目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本を含む世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

ファミリーファンド

目論見書または投資信託約款において、親投資信託(ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除きます。)を投資対象として投資するものをいいます。

為替ヘッジなし

目論見書または投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行なう旨の記載がないものをいいます。

上記は、社団法人投資信託協会が定める分類方法に基づき記載しています。
上記以外の商品分類および属性区分の定義につきましては、社団法人投資信託協会のホームページ(<http://www.toushin.or.jp/>)をご参照ください。

ファンドの特色

1

世界各国の上場不動産投信（REIT）を中心に投資を行ない、比較的高い分配金利回りを安定的に獲得することをめざします。

・主として、「世界REITマザーファンド」受益証券への投資を通じて、世界各国の上場不動産投信（REIT）を中心に投資を行ないます（ファミリーファンド方式）。世界の不動産投信に投資を行なうことで、比較的高い分配金利回りを安定的に獲得することをめざします。

・外貨建資産への投資にあたっては、原則として為替ヘッジは行ないません。

不動産投信とは、不特定多数の投資家から資金を調達し、不動産の所有、管理、運営を行なうもので、REIT（=Real Estate Investment Trust）と呼ばれる場合があります。多くの不動産投信は、一定の適格要件を満たすことにより、法人税の課税が事実上免除されています。不動産投信に投資する投資家は、不動産などに投資して得られる収益の大半を受け取ることができます。不動産投信には上場しているものと、非上場のものがありますが、当ファンドは原則として各国の金融商品取引所に上場している不動産投信に投資します。なお、豪州に上場している不動産投信は、一般的にLPT（=Listed Property Trust）と呼ばれています。当ファンドは、このLPTにも積極的に投資します。

2

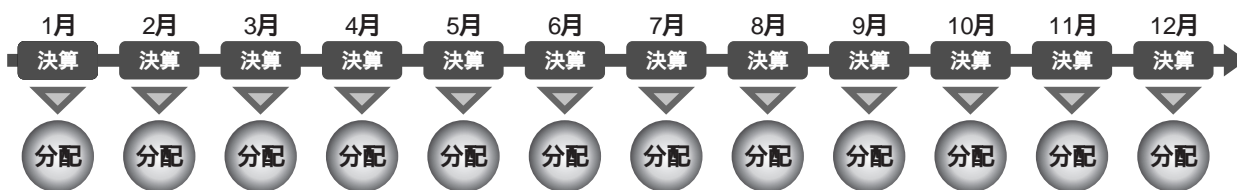
原則として、毎月、安定した収益分配を行なうことをめざします。

・毎月5日（休業日の場合は翌営業日）を決算日として、安定した収益分配を行なうことをめざします。

・基準価額が当初元本（1万口当たり1万円）を下回っている場合においても、分配を行なう場合があります。

*なお、分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

組入不動産投信の分配収益などを原資とします



上図はイメージであり、将来の分配金の支払いを約束するものではありません。

<分配金再投資コース>の場合、原則として、収益分配金は税金を差し引いた後、無手数料で自動的に再投資されます。

運用の内容について

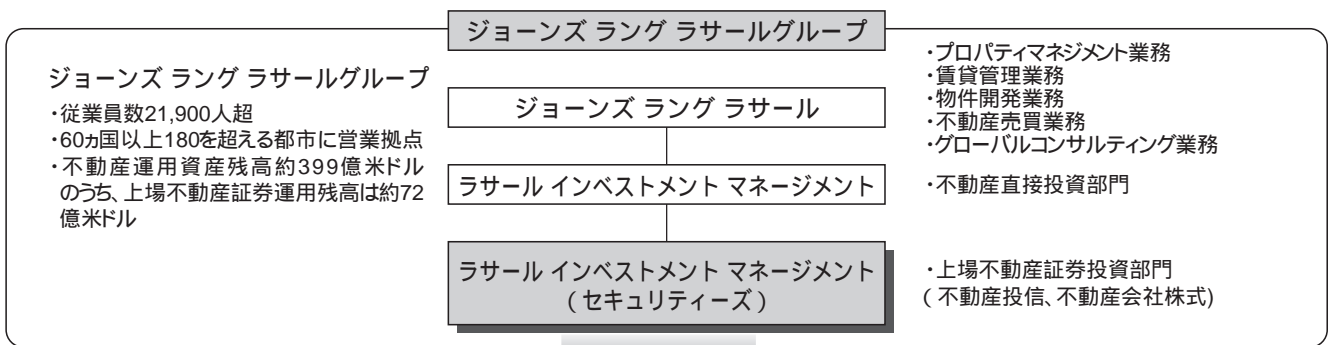
3

ラサール インベストメント マネージメント(セキュリティーズ)が運用を担当します。

「世界REITマザーファンド」の運用にあたっては、ラサール インベストメント マネージメント (セキュリティーズ)に運用の指図に関する権限を委託します。

ラサール インベストメント マネージメント (セキュリティーズ) について

同社は、世界有数の総合不動産サービス会社の1つである「ジョーンズ ラング ラサールグループ」の上場不動産証券投資部門です。

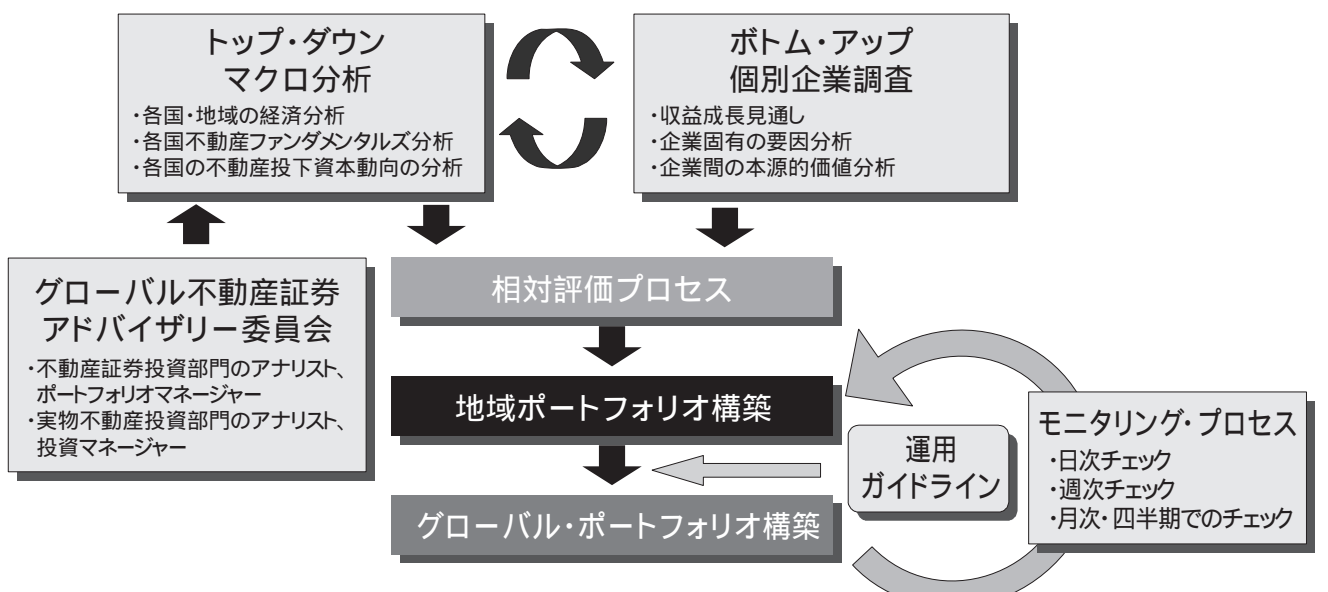


「ラサール インベストメント マネージメント(セキュリティーズ)」

- ・ラサール インベストメント マネージメント(セキュリティーズ)は、1985年に設立された運用会社です。
- ・グローバルな視点に立った長期にわたる不動産市場分析と首尾一貫した運用哲学・運用手法に定評があり、上場不動産証券投資に優れた運用実績を有しています。

(2009年12月末現在)

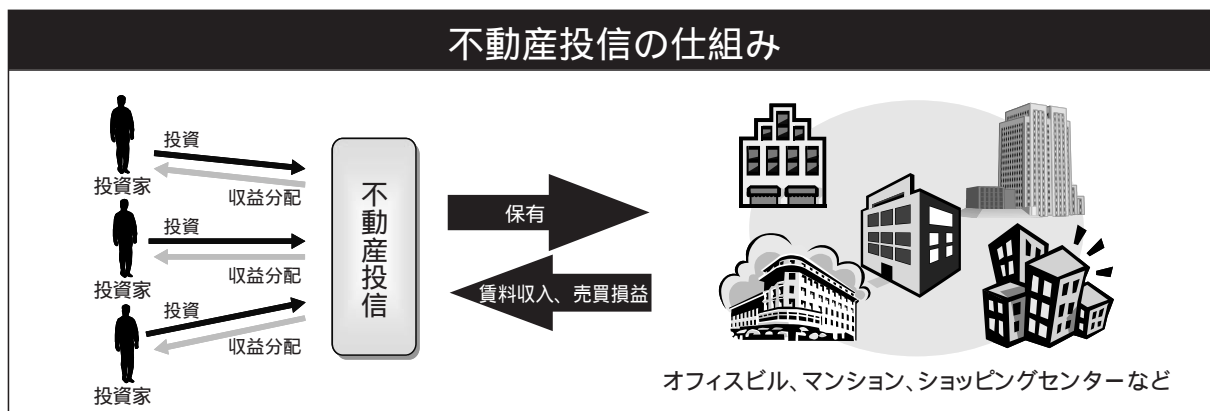
ラサール インベストメント マネージメント(セキュリティーズ)のグローバルポートフォリオの運用プロセス



上記は2009年12月末現在のプロセスであり、将来変更となる場合があります。

不動産投信とは

投資家から集めた資金などで不動産を保有し、そこから生じる賃料収入、売却益などが投資家に分配される商品です。一般的に上場不動産投信は株式と同じように売買することが可能です。



不動産投信のメリット

比較的高く安定した分配金利回り	不動産投信は、不動産を保有することにより生じる賃料収入などを分配原資として分配を行ないます。また一般的には、この分配原資の一定以上を分配するかわりに、法人税が事実上免除されています。そのため、比較的高く安定した分配金利回りを期待することができます。
インフレに強い	主な収益源となる賃料や、不動産の価格はインフレに連動して動く傾向があるため、インフレに強いと考えられています。
小口から分散投資が可能	不動産への直接投資と比較しますと、小口から複数の不動産物件への投資が可能となります。投資地域の分散やテナントの分散によるリスク軽減を図ることが可能となります。
専門家による運用の効果	不動産投資は高度な専門性を有しますが、不動産投信は専門家が運用するので、投資家は不動産投信に投資することで、専門家の運用によるメリットを享受することが期待できます。
高い流動性・換金性	金融商品取引所に上場している不動産投信は、相対的に現物の不動産よりも流動性・換金性に優れています。

運用の内容について

不動産投信の主なリスク

不動産投信は、不動産を運用対象とする商品で、かつ、市場で取引されますので、不動産を取り巻く環境、不動産市況や金利動向、マクロ経済の変化など、様々な要因で分配金や価格は影響を受けます。

- ・不動産の価格は、不動産市況、社会情勢その他の要因を理由として変動します。さらに不動産の流動性は一般に低く、望ましい時期に売却することができない可能性、売却価格が下落する可能性があります。元本が保証された商品ではありません。
- ・不動産投信は、一般の法人と同様に倒産のリスクがあります。法的倒産手続きを開始した場合、本投資証券の価格が著しく下落し、無価値になることも予想されます。
- ・不動産について、火災、爆発、水災その他の事故について、火災保険などの保険契約で支払われる上限額を上回る損害が発生した場合には、著しい悪影響を受ける可能性があります。
- ・地震、噴火、津波などの災害により不動産が滅失、劣化または毀損し、その価格が影響を受ける可能性があります。
- ・不動産からの収入が減少する可能性や、不動産に関する費用は増大する可能性があり、分配金額が悪影響を受けることがあります。
- ・収益は、不動産の賃料収入に依存しています。賃料収入は、不動産の稼働率の低下、賃料水準の低下、テナントによる賃料の支払債務の不履行・遅延などにより減少する可能性があります。
- ・退去するテナントへの敷金・保証金の返還、多額の資本的支出、未稼働不動産の取得などは、分配金額に悪影響を及ぼす可能性があります。
- ・金融商品取引所が定める基準に抵触し、上場廃止になった場合には、取引が著しく困難になる可能性があります。

投資方針

投資方針

- ・主として、「世界REITマザーファンド」受益証券に投資を行ない、安定した収益の確保と中長期的な信託財産の成長をめざし運用を行ないます。
- ・マザーファンド受益証券の組入比率は高位を保つことを原則とします。なお、資金動向などによっては組入比率を引き下げることもあります。
- ・ただし、市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準となったときなどやむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

投資対象

「世界REITマザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。

その他の投資対象に関しましては「約款」をご覧ください。

運用の内容について

投資対象とするマザーファンドの概要

世界REITマザーファンド

運用の基本方針

基本方針	世界各国の金融商品取引所に上場する不動産投信(社団法人投資信託協会規則に定める不動産投信等をいいます。)の投資信託証券(以下「不動産投資信託証券」といいます。)に投資を行ない、インカム収益の確保と中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主な投資対象	世界各国の金融商品取引所に上場する不動産投資信託証券を主要投資対象とします。
投資方針	<ul style="list-style-type: none"> ・主として、世界各国の金融商品取引所に上場する不動産投資信託証券に投資を行ない、インカム収益の確保を図るとともに、中長期的な信託財産の成長をめざします。 ・不動産投資信託証券の銘柄選定にあたっては、世界各国の金融商品取引所に上場している不動産投資信託証券の中から、各銘柄毎の利回り水準、市況動向、安定性、流動性に加えて、ファンダメンタルズや割安性の分析も行ない、投資を行ないます。 ・不動産投資信託証券の組入比率は、高位を維持することを基本とします。 ・外貨建資産への投資にあたっては、原則として為替ヘッジを行ないません。 ・ただし、市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準となったときなどやむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> ・投資信託証券、短期社債等、コマーシャル・ペーパーおよび指定金銭信託以外の有価証券への直接投資は行ないません。 ・有価証券先物取引等の派生商品取引ならびに有価証券の貸付、空売りおよび借入れは行ないません。 ・投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。 ・同一銘柄の投資信託証券への投資は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。 ・外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
収益分配	収益分配は行ないません。

ファンドに係る費用

信託報酬	ありません。
申込手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。
その他の費用など	組入有価証券の売買時の売買委託手数料、信託事務の処理に要する諸費用、信託財産に関する租税など。 上記費用に付随する消費税等相当額を含みます。

その他

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社
受託会社	みずほ信託銀行株式会社
投資顧問会社	ラサール インベストメント マネージメント(セキュリティーズ)(投資一任)
信託期間	無期限(平成16年3月26日設定)
決算日	毎年1月5日(休業日の場合は翌営業日)

分配方針

収益分配方針

毎決算時に、原則として次の通り収益分配を行なう方針です。

- 1) 分配対象額の範囲
経費控除後の利子・配当等収益および売買益(評価益を含みます。)などの全額とします。
- 2) 分配対象額についての分配方針
分配金額は、委託会社が決定するものとし、原則として、安定した分配を継続的に行なうことをめざします。
- 3) 留保益の運用方針
収益分配に充てず信託財産内に留保した利益については、約款に定める運用の基本方針に基づき運用を行ないます。

収益分配金の支払い

< 分配金再投資コース >

原則として、収益分配金は税金を差し引いた後、無手数料で自動的に再投資されます。

< 分配金受取りコース >

毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日(原則として決算日から起算して5営業日まで)から収益分配金を支払います。支払いは販売会社において行なわれます。

投資制限

約款に定める投資制限

- 1) 投資信託証券、短期社債等(社債、株式等の振替に関する法律第66条第1号に規定する短期社債、同法第117条に規定する相互会社の社債、同法第118条に規定する特定社債および同法第120条に規定する特別法人債をいいます。)、コマーシャル・ペーパーおよび指定金銭信託以外の有価証券への直接投資は行ないません。
- 2) 有価証券先物取引等の派生商品取引ならびに有価証券の貸付、空売りおよび借入れは行ないません。
- 3) 投資信託証券への実質投資割合には、制限を設けません。
- 4) 同一銘柄の投資信託証券(マザーファンドの受益証券を除きます。)への実質投資は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。
- 5) 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。

その他の投資制限に関しましては「約款」をご覧ください。

運用の内容について

ファンドのリスク

ファンドのリスク

- ・当ファンド(マザーファンドを含みます。)は、主に投資信託証券に投資を行ない、投資対象とする投資信託証券は、主に不動産など値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。
- ・当ファンドは、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- ・信託財産に生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。取得申込者は、ファンドの投資目的およびリスク要因を十分に認識することが求められます。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

価格変動リスク

不動産投信は、不動産を運用対象とする商品で、かつ市場で取引されますので、不動産を取り巻く環境、不動産市況や金利動向、マクロ経済の変化など、様々な要因で分配金や価格は影響を受けます。
詳しくは、8ページ<不動産投信の主なリスク>をご参照ください。

流動性リスク

市場規模や取引量が少ない場合、組入銘柄を売却する際に市場実勢から期待される価格で売却できず、不測の損失を被るリスクがあります。

信用リスク

不動産投信が支払不能や債務超過の状態になった場合、またはそうなることが予想される場合、大きな損失を被る可能性があります。また、金融商品取引所が定める一定の基準に該当した場合、上場が廃止される可能性があります。

為替変動リスク

外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

その他の留意事項

● システムリスク・市場リスクなどに関する事項

証券市場および外国為替市場は、世界的な経済事情の急変またはその国における天災地変、政変、経済事情の変化、政策の変更もしくはコンピューター・ネットワーク関係の不慮の出来事などの諸事情により閉鎖されることがあります。これにより、ファンドの投資方針に従った運用ができない場合があります。また、一時的に取得・換金ができなくなることもあります。

● 投資対象とする投資信託証券に関する事項

諸事情により、投資対象とする投資信託証券(マザーファンドが投資対象とする投資信託証券を含みます。)にかかる投資や換金ができない場合があります。これにより、ファンドの投資方針に従った運用ができなくなる場合があります。また、一時的にファンドの取得・換金ができなくなることもあります。

● 解約によるファンドの資金流出に伴う基準価額変動に関する事項

一度に大量の解約があった場合に、解約資金の手当てをするため保有証券を大量に売却することがあります。その際に基準価額が大きく変動する可能性があります。

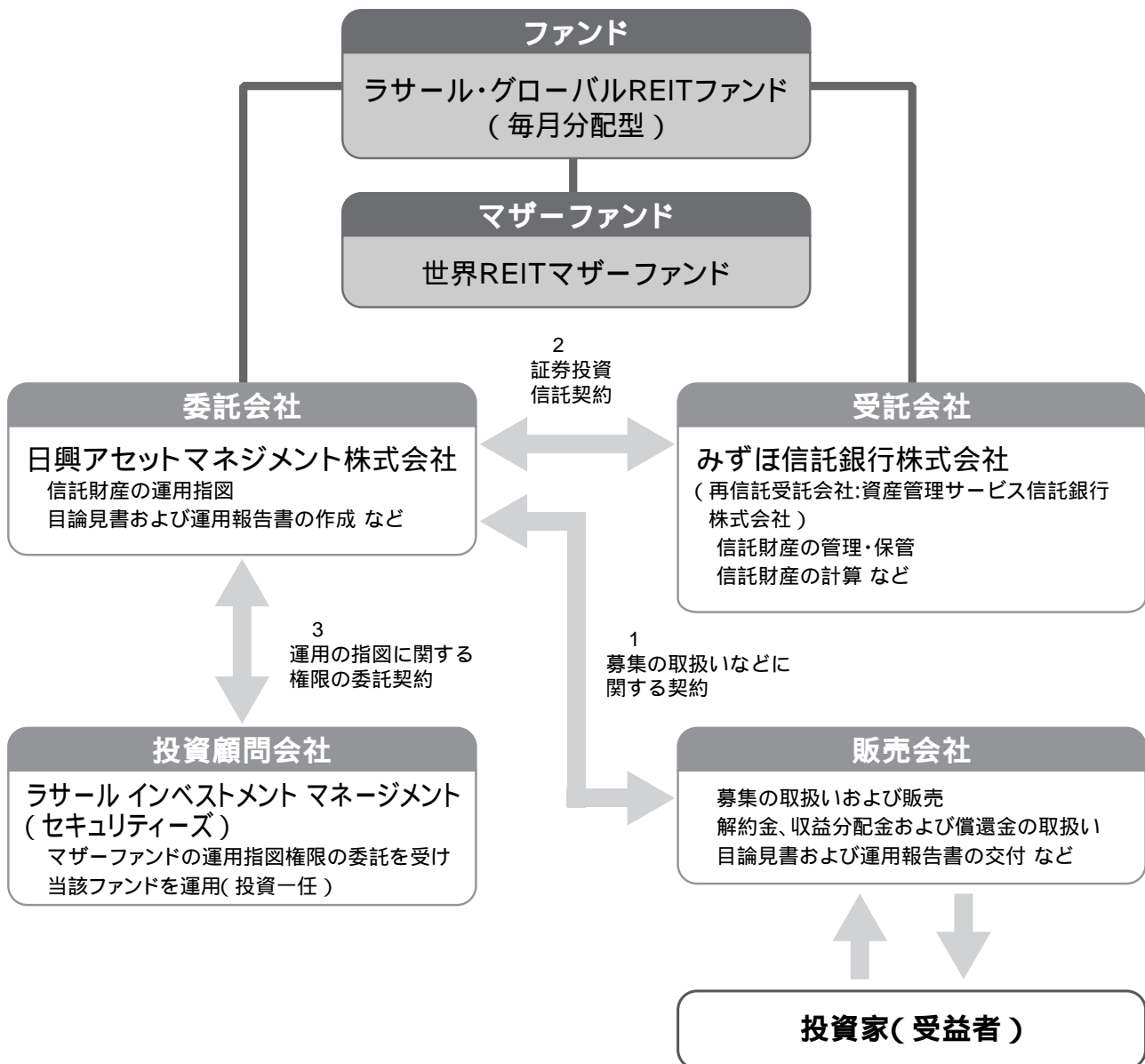
● 法令・税制・会計方針などの変更に関する事項

ファンドに適用される法令・税制・会計方針などは、今後変更される場合があります。

運用の内容について

ファンドの仕組み・体制

ファンドの仕組み

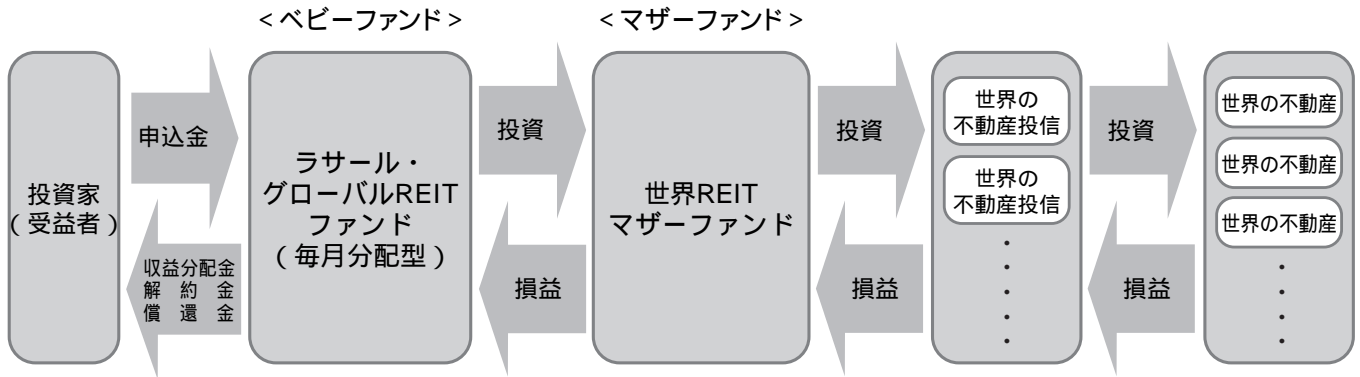


運用の内容

- 1 投資信託を販売するルールを委託会社と販売会社の間で規定したもの。販売会社が行なう募集の取扱い、収益分配金・償還金の支払い、解約請求の受付の業務範囲の取決めの内容などが含まれています。
- 2 投資信託を運営するルールを委託会社と受託会社の間で規定したもの。運用の基本方針、投資対象、投資制限、信託報酬、受益者の権利、募集方法の取決めの内容などが含まれています。
- 3 投資顧問会社に運用の指図に関する権限を委託するにあたり、そのルールを委託会社と投資顧問会社との間で規定したもの。委託する業務内容、報酬の取決めの内容などが含まれています。

ファミリーファンド方式について

ファミリーファンド方式とは、投資家から投資された資金をまとめてベビーファンドとし、その資金を主としてマザーファンド受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行なう仕組みです。

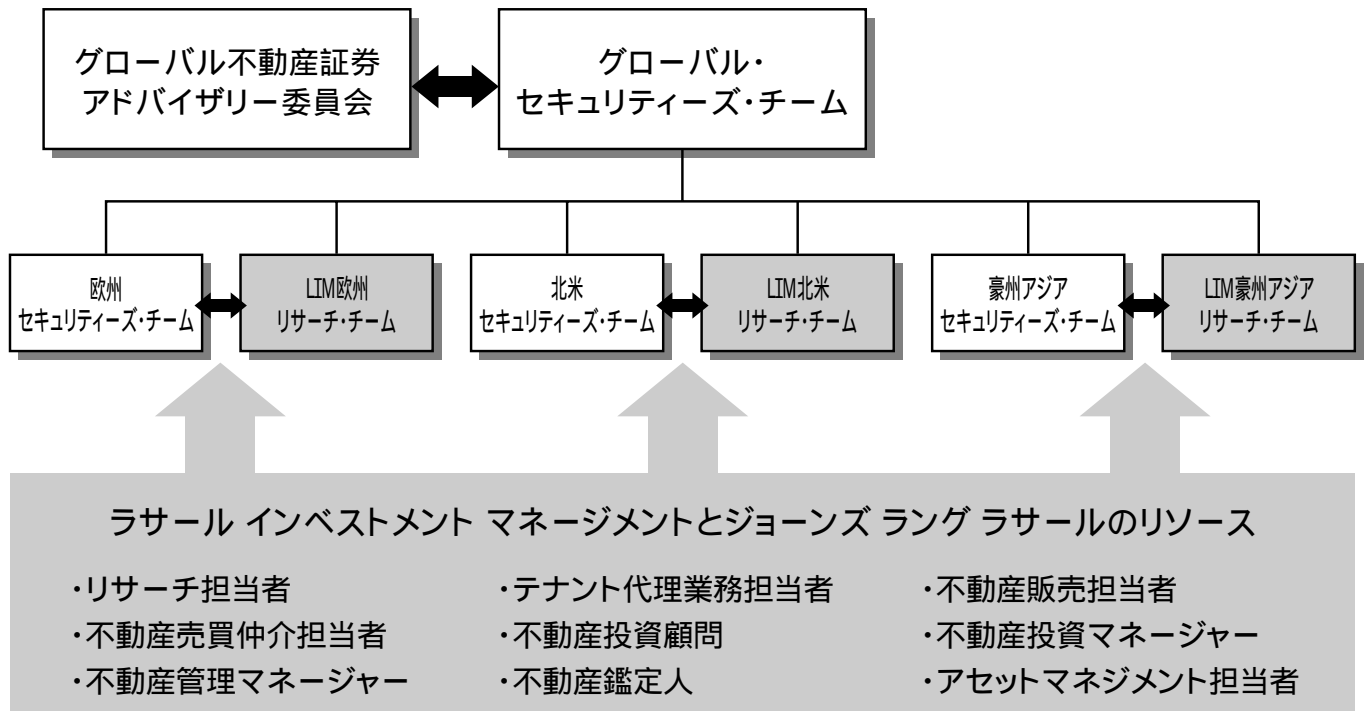


運用の内容

運用体制・リスク管理体制

運用体制

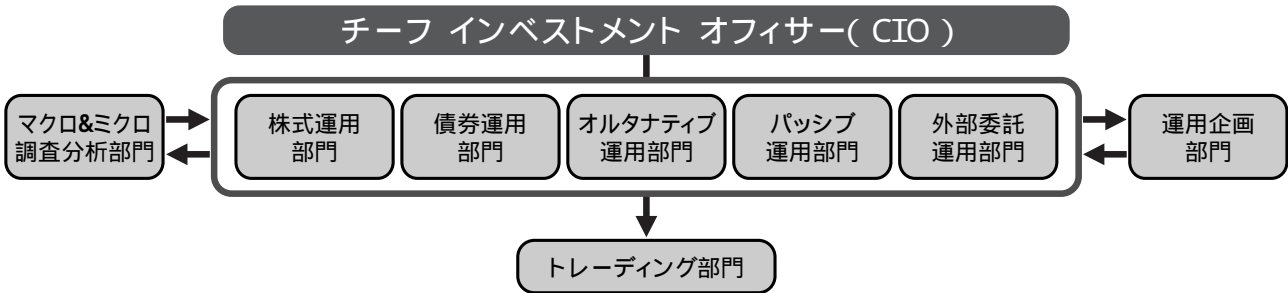
<ラサール インベストメント マネージメント(セキュリティーズ) 投資顧問会社)における運用体制>
 当ファンドの主要投資対象である「世界REITマザーファンド」の運用にあたっては、ラサール インベストメント マネージメント(セキュリティーズ)に運用の指図に関する権限を委託します。



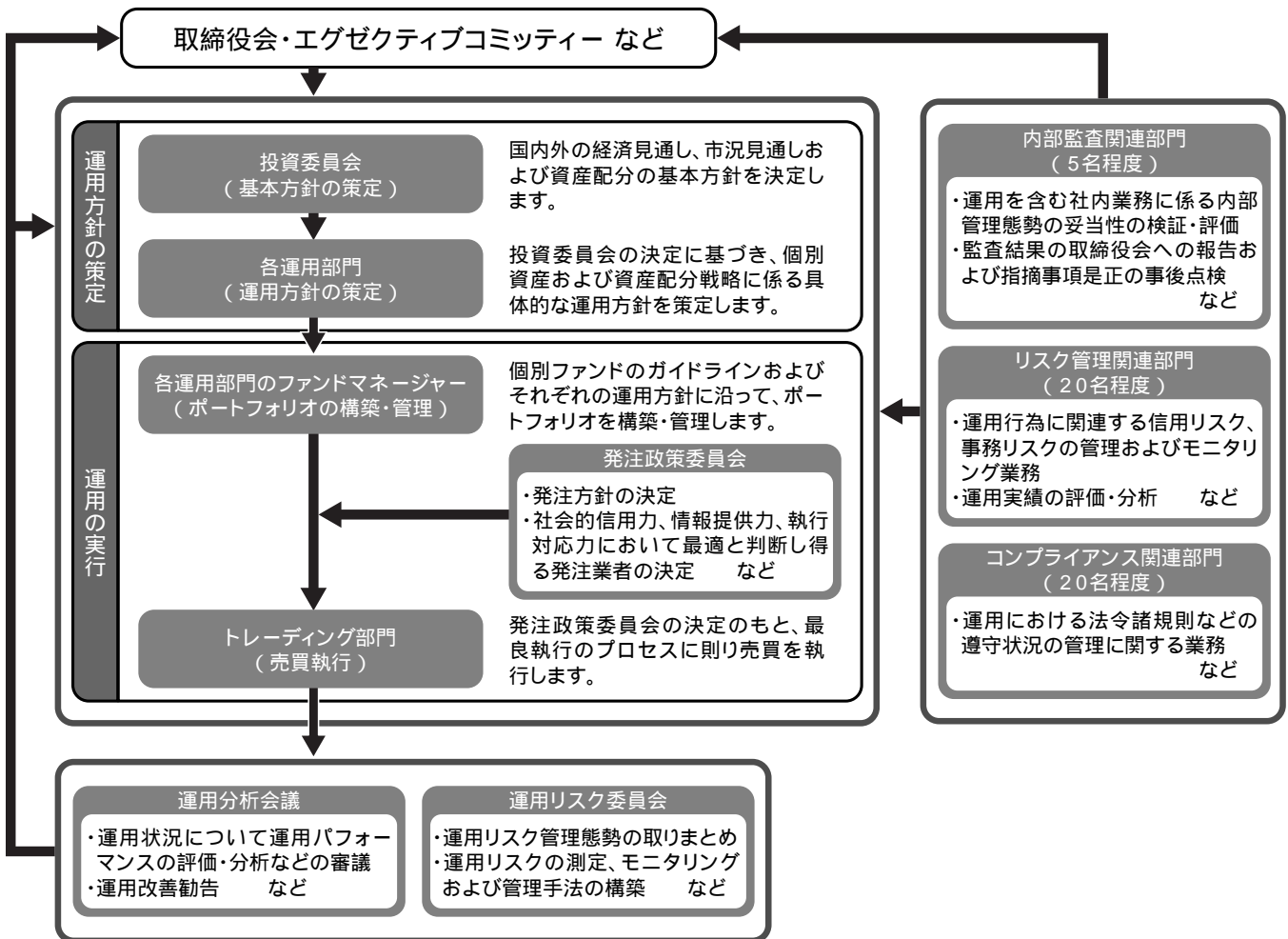
(2009年12月末現在)

運用の内容について

<日興アセットマネジメント株式会社(委託会社)における運用体制>
委託会社における運用体制は以下の通りです。



委託会社の運用体制における内部管理および意思決定を監督する組織などは以下の通りです。



運用の内容

委託会社によるファンドの関係法人(販売会社を除く)に対する管理体制

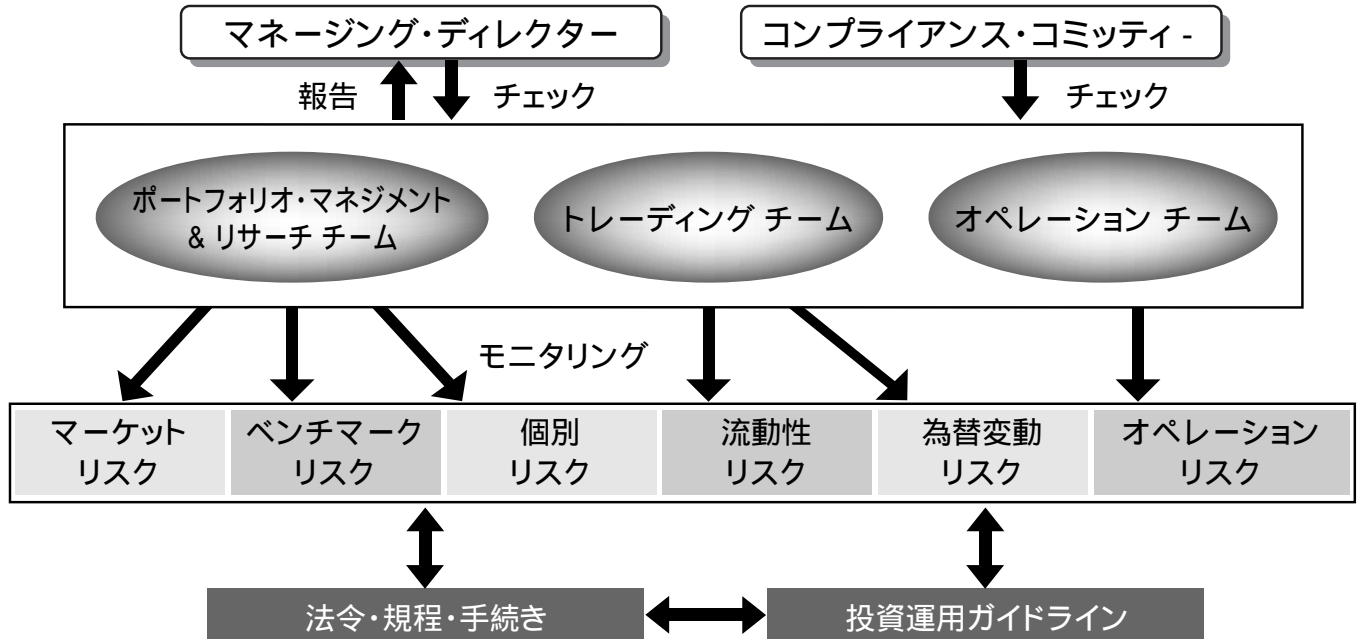
「受託会社」に対しては、日々の純資産照合、月次の勘定残高照合などを行っております。また、独立した監査法人が所定の手続きで受託業務について監査を行っており、内部統制が有効に機能している旨の監査報告書を定期的に受け取っております。

「投資顧問会社」については、投資顧問会社の管理体制およびリスク管理状況のモニタリングをリスク管理業務担当部門にて行ないます。また、外部委託運用部門では担当窓口として連絡調整を行なうとともに、投資顧問会社の運用プロセスに関する定期的なレビューおよび運用(投資助言を含みます。)するファンドのモニタリングを行ないます。

上記体制は有価証券届出書提出日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

リスク管理体制

<ラサール インベストメント マネージメント(セキュリテーズ) 投資顧問会社)におけるリスク管理体制>

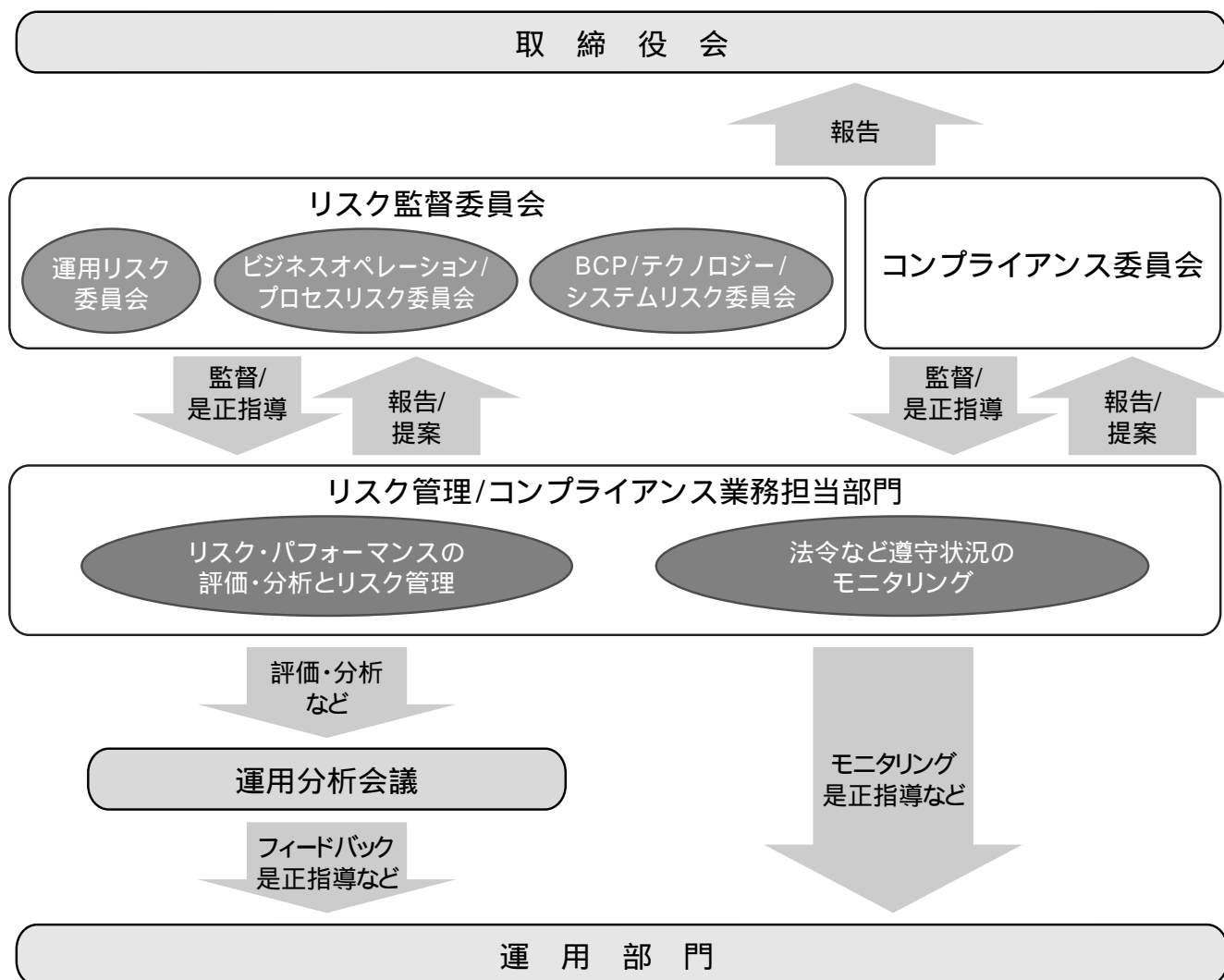


- ・ファンドのリスク管理は、ポートフォリオ構築のプロセスの一部としてのみならず、全社的なビジネスプロセスに組み込まれており、独自の管理モデルおよび評価プロセスを通じて、継続的に行なっています。
- ・すべてのリスク管理は、マネージング・ディレクターが統括しています。各部門の協力・分担により個別のリスクについてモニタリングを実施し、リスク管理を行なっています。同時に投資ガイドラインおよび諸法令に遵守しているかどうかについてもモニタリングを行なっています。
- ・個別リスクのモニタリングの結果は、マネージング・ディレクターへ速やかに報告され、ファンドのリスク管理に活用されます。
- ・マネージング・ディレクターおよびコンプライアンス・コミッティ-では、個別リスクをモニタリングする各チームのリスクモニタリング体制をチェックし、リスク管理体制が維持出来るように努めています。

(2009年12月末現在)

運用の内容について

< 日興アセットマネジメント株式会社(委託会社)におけるリスク管理体制 >



運用の内容

全社的リスク管理

当社では運用部門、営業部門と独立した組織であるリスクマネジメント部を設置し、全社的なリスク管理活動のモニタリング、指導の一元化を図っております。当社グループの法令などの遵守状況およびリスク管理状況については、リスクマネジメント部が事務局を務めるリスク監督委員会を通して経営陣に報告され、更に年一度以上取締役会に対して全体的な活動状況を報告しております。本委員会およびその部門別委員会においては、各種リスク(運用リスク、事務リスク、システムリスクなど)に関するモニタリングとその報告に加えて、重大なリスクの洗い出し、より予防的なリスクの軽減に繋がる施策、管理手法の構築などに努めております。

リスク・パフォーマンスの評価・分析とリスク管理

ファンド財産について運用状況の評価・分析と運用プロセスおよびリスク運営状況のモニタリングを行ないます。また、当社外部委託運用部門では外部委託運用機関との担当窓口として連絡調整を行なうとともに、ファンドのモニタリングも行なっています。運用パフォーマンスおよびリスクに係る評価と分析の結果については運用分析会議に報告し、リスク管理状況についてはリスク監督委員会あるいはその部門別委員会へ報告され、問題点については運用部門に原因の究明と是正指導を行ないます。

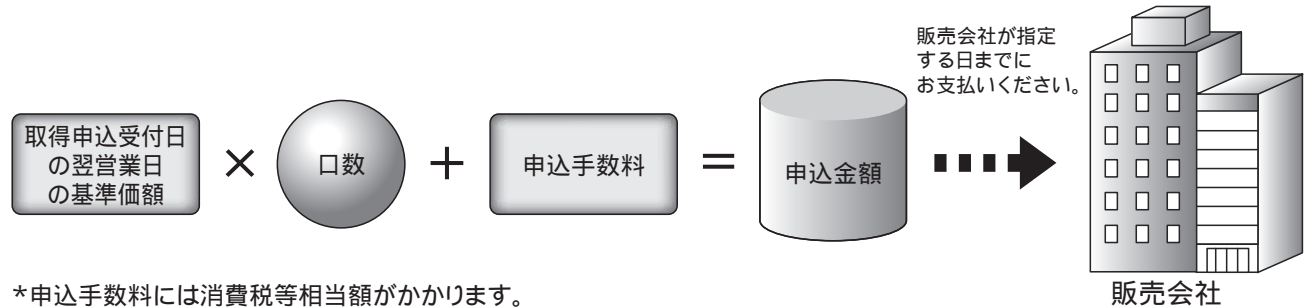
法令など遵守状況のモニタリング

運用における法令・諸規則、信託約款などの遵守状況については、コンプライアンス関連部門が管理を行ないます。問題点についてはコンプライアンス委員会に報告され、必要に応じ運用部門に対し是正指導が行なわれるなど、適切に管理・監督を行ないます。

上記体制は平成22年6月4日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

取得申込み手続き

< 申込みについて(イメージ図) >



*申込手数料には消費税等相当額がかかります。

申込みの方法など	
申込方法	販売会社所定の方法でお申し込みください。
コースの選択	収益分配金の受取方法によって、<分配金再投資コース>と<分配金受取りコース>の2通りがあります。ただし、販売会社によって取扱コースは異なります。 分配金再投資コース…収益分配金を自動的に再投資するコースです。 分配金受取りコース…収益分配金を再投資せず、その都度受け取るコースです。
申込取扱場所	販売会社につきましては、委託会社の照会先にお問い合わせください。
申込みの時間など	
申込みの受付	販売会社の営業日に受け付けます。
取扱時間	原則として、午後3時までに、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。なお、上記時刻を過ぎた場合は、翌営業日の取扱いとなります。
取得申込不可日	販売会社の営業日であっても、取得申込日が下記のいずれかに該当する場合は、取得の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ・ニューヨーク証券取引所の休業日 ・ニューヨークの銀行休業日 ・オーストラリア証券取引所の休業日
申込期間	平成22年4月6日から平成23年4月5日までとします。 ・上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。

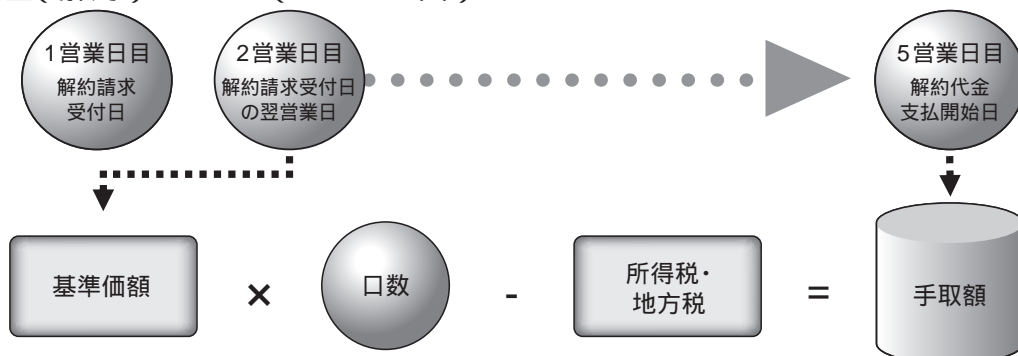
手続きと費用について

申込みの金額など	
申込価額	<p>取得申込受付日の翌営業日の基準価額とします。</p> <p>・基準価額につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。</p>
申込手数料	<p>販売会社が定めるものとします。申込手数料率につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。</p> <p>・販売会社における申込手数料率は3.15%(税抜3%)が上限となっております。</p> <p>・申込手数料の額(1口当たり)は、申込価額に申込手数料率を乗じて得た額とします。</p> <p>・<分配金再投資コース>の場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、申込手数料はかかりません。</p> <p>・販売会社によっては、償還乗換、乗換優遇の適用を受けることができます場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。</p>
申込金額	<p>申込価額に取得申込口数を乗じて得た額に、申込手数料と当該手数料に係る消費税等相当額を加算した額です。</p>
申込単位	<p>販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。</p>
申込代金の支払い	<p>取得申込者は、申込金額を販売会社が指定する日までに販売会社へお支払いください。</p>
その他	
受付の中止および取消	<p>委託会社は、投資対象とする投資信託証券(マザーファンドが投資対象とする投資信託証券を含みます。)への投資ができない場合、金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、取得の申込みの受付を中止すること、および既に受け付けた取得の申込みの受付を取り消すことができます。</p> <p>金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場をいいます。</p>

換金手続き

解約請求による換金

< 換金(解約)について(イメージ図) >



換金(解約)の時間など

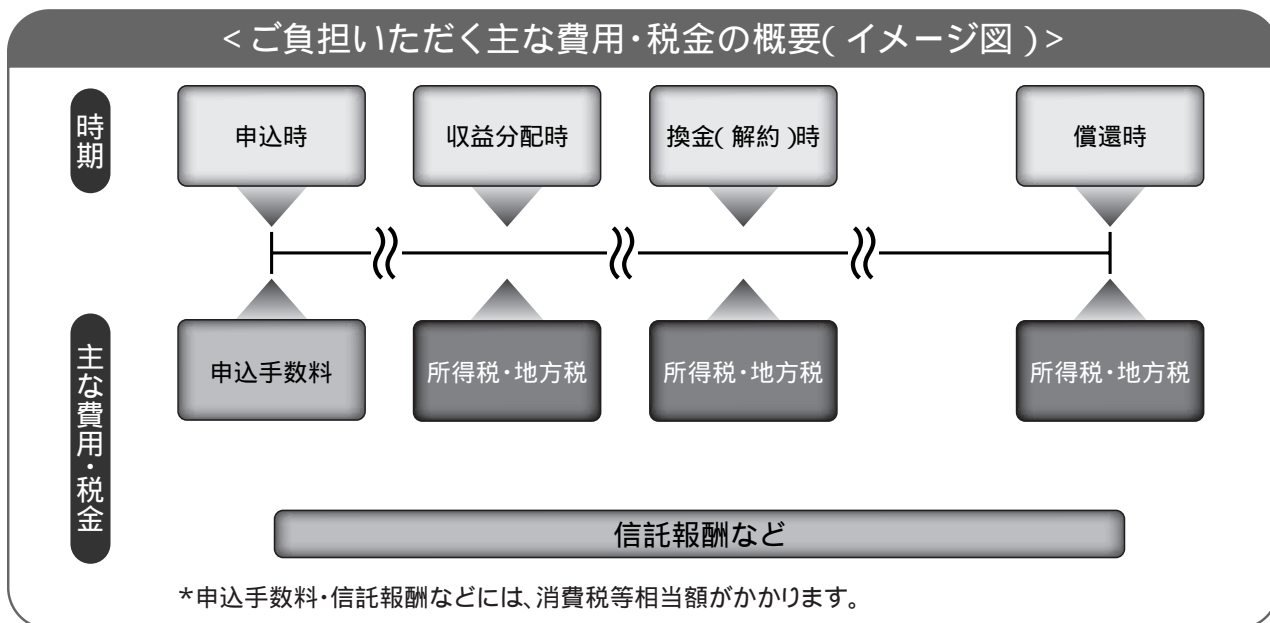
解約の受付	販売会社の営業日に受け付けます。
取扱時間	原則として、午後3時までに、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。なお、上記時刻を過ぎた場合は、翌営業日の取扱いとなります。
解約請求不可日	販売会社の営業日であっても、解約請求日が下記のいずれかに該当する場合は、解約請求の受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ・ニューヨーク証券取引所の休業日 ・ニューヨークの銀行休業日 ・オーストラリア証券取引所の休業日
解約制限	ファンドの規模および商品性格などに基づき、運用上の支障をきたさないようにするため、大口の解約には受付時間制限および金額制限を行なう場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

換金(解約)の金額など

解約価額	解約請求受付日の翌営業日の基準価額とします。 ・基準価額につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。
解約手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。
手取額	1口当たりの手取額は、解約価額から所得税および地方税を差し引いた金額となります。 税法が改正された場合などには、税率などの課税上の取扱いが変更になる場合があります。 詳しくは、後述の「費用・税金」をご覧ください。
解約単位	1口単位 販売会社によっては、解約単位が異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
解約代金の支払い	原則として、解約請求受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
その他	
受付の中止および取消	委託会社は、投資対象とする投資信託証券(マザーファンドが投資対象とする投資信託証券を含みます。)からの換金ができない場合、金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、解約請求の受付を中止すること、および既に受け付けた解約請求の受付を取り消すことができます。

手続きと費用について

費用・税金



申込時、収益分配時、換金(解約)時などにご負担いただく費用・税金

時期	項目	費用・税金
申込時	申込手数料 (1口当たり)	基準価額に対し3.15%(税抜3%)以内
収益分配時	所得税・地方税	普通分配金に対し10%*
換金(解約)時 (解約請求)	換金(解約)手数料	ありません。
	信託財産留保額	ありません。
	所得税・地方税	差益(譲渡益)に対し10%*
償還時	所得税・地方税	差益(譲渡益)に対し10%*

*上記の税率は個人の場合であり、法人の場合については、後述の「課税上の取扱い」をご覧ください。なお、平成24年1月1日以降は、上記の10%の税率は20%となる予定です。詳しくは、後述の「課税上の取扱い」をご覧ください。

申込手数料は販売会社が定めます。上記は販売会社が定めた手数料率のうち上限の率を記載しております。

< 分配金再投資コース > の場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、申込手数料はかかりません。

買取請求による換金の際の課税については、販売会社にお問い合わせください。

税法が改正された場合などには、税率などの課税上の取扱いが変更になる場合があります。詳しくは、後述の「課税上の取扱い」をご覧ください。

信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用・税金

時期	項目	費用・税金																								
毎日	信託報酬	<p>純資産総額に対し年率1.575%(税抜1.5%)</p> <p>この他に、投資対象とする「世界REITマザーファンド」の主要投資対象である不動産投信には運用などに係る費用がかかりますが、投資する不動産投信の銘柄は固定されていないため、事前に料率、上限額などを表示することができません。</p> <p>・信託報酬の配分は、以下の通りとします。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">販売会社毎の 純資産総額</th> <th colspan="4">信託報酬率(年率)</th> </tr> <tr> <th>合計</th> <th>委託会社</th> <th>販売会社</th> <th>受託会社</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100億円以下の部分</td> <td></td> <td>0.9135% (0.87%)</td> <td>0.5775% (0.55%)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>100億円超 500億円以下の部分</td> <td>1.5750% (1.50%)</td> <td>0.8610% (0.82%)</td> <td>0.6300% (0.60%)</td> <td>0.0840% (0.08%)</td> </tr> <tr> <td>500億円超の部分</td> <td></td> <td>0.7560% (0.72%)</td> <td>0.7350% (0.70%)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>括弧内は税抜です。 マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、上記委託会社が受ける信託報酬の中から支払います。</p> <p>・信託報酬(信託報酬に係る消費税等相当額を含みます。)は、毎計算期末または信託終了のときに、信託財産から支払います。</p>	販売会社毎の 純資産総額	信託報酬率(年率)				合計	委託会社	販売会社	受託会社	100億円以下の部分		0.9135% (0.87%)	0.5775% (0.55%)		100億円超 500億円以下の部分	1.5750% (1.50%)	0.8610% (0.82%)	0.6300% (0.60%)	0.0840% (0.08%)	500億円超の部分		0.7560% (0.72%)	0.7350% (0.70%)	
	販売会社毎の 純資産総額	信託報酬率(年率)																								
合計		委託会社	販売会社	受託会社																						
100億円以下の部分		0.9135% (0.87%)	0.5775% (0.55%)																							
100億円超 500億円以下の部分	1.5750% (1.50%)	0.8610% (0.82%)	0.6300% (0.60%)	0.0840% (0.08%)																						
500億円超の部分		0.7560% (0.72%)	0.7350% (0.70%)																							
	監査費用	純資産総額に対し年率0.00945%(税抜0.009%)以内																								
随時	売買委託手数料など	<p>組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息など</p> <p>・詳しくは、後述の「その他の費用などについて」をご覧ください。</p>																								

売買委託手数料などは、保有期間や運用の状況などに応じて異なり、あらかじめ見積もることができないため、表示することができません。

手続きと費用について

その他の費用などについて

< 売買委託手数料など >

信託財産に関する以下の費用およびそれに付随する消費税等相当額は、受益者の負担とし、信託財産から支払います。

- 1) 組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料。
- 2) 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、外貨建資産の保管などに要する費用、解約に伴なう支払資金の手当てなどを目的とした借入金の利息および受託会社の立て替えた立替金の利息。

〔投資対象とするマザーファンドに係る費用〕

- ・組入有価証券の売買時の売買委託手数料
- ・信託事務の処理に要する諸費用
- ・信託財産に関する租税 など

投資家の皆様にご負担いただく手数料などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

課税上の取扱い

個人受益者の場合

1) 収益分配金に対する課税

- ・収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については配当所得として、平成23年12月31日までは軽減税率が適用され、10%(所得税7%および地方税3%)の税率による源泉徴収(原則として、確定申告は不要です。)が行なわれます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税のいずれかを選択することもできます。
- ・なお、平成24年1月1日以降は、上記の10%の税率は20%(所得税15%および地方税5%)となる予定です。

2) 解約金および償還金に対する課税

- ・解約時および償還時の差益(譲渡益)^{*}については譲渡所得として、平成23年12月31日までは軽減税率が適用され、10%(所得税7%および地方税3%)の税率による申告分離課税の対象となり、確定申告が必要となります。なお、源泉徴収ありの特定口座(源泉徴収選択口座)を選択している場合は、10%(所得税7%および地方税3%)の税率による源泉徴収(原則として、確定申告は不要です。)が行なわれます。

*解約価額および償還価額から取得費用(申込手数料および当該手数料に係る消費税等相当額を含みます。)を控除した利益

- ・なお、平成24年1月1日以降は、上記の10%の税率は20%(所得税15%および地方税5%)となる予定です。

確定申告等により、解約時および償還時の差損(譲渡損失)については、上場株式等の譲渡益および上場株式等の配当等(申告分離課税を選択したものに限り)と損益通算が可能です。また、解約時および償還時の差益(譲渡益)および普通分配金(申告分離課税を選択したものに限り)については、上場株式等の譲渡損失と損益通算が可能です。

法人受益者の場合

1) 収益分配金、解約金、償還金に対する課税

- ・収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の個別元本超過額については配当所得として、平成23年12月31日までは軽減税率が適用され、7%(所得税のみ)の税率による源泉徴収が行なわれます。源泉徴収された税金は、所有期間に応じて法人税から控除される場合があります。
- ・なお、平成24年1月1日以降は、上記の7%の税率は15%(所得税のみ)となる予定です。

2) 益金不算入制度の適用

益金不算入制度は適用されません。

買取請求による換金の際の課税については、販売会社にお問い合わせください。

税法が改正された場合などには、税率などの課税上の取扱いが変更になる場合があります。

手続きと費用について

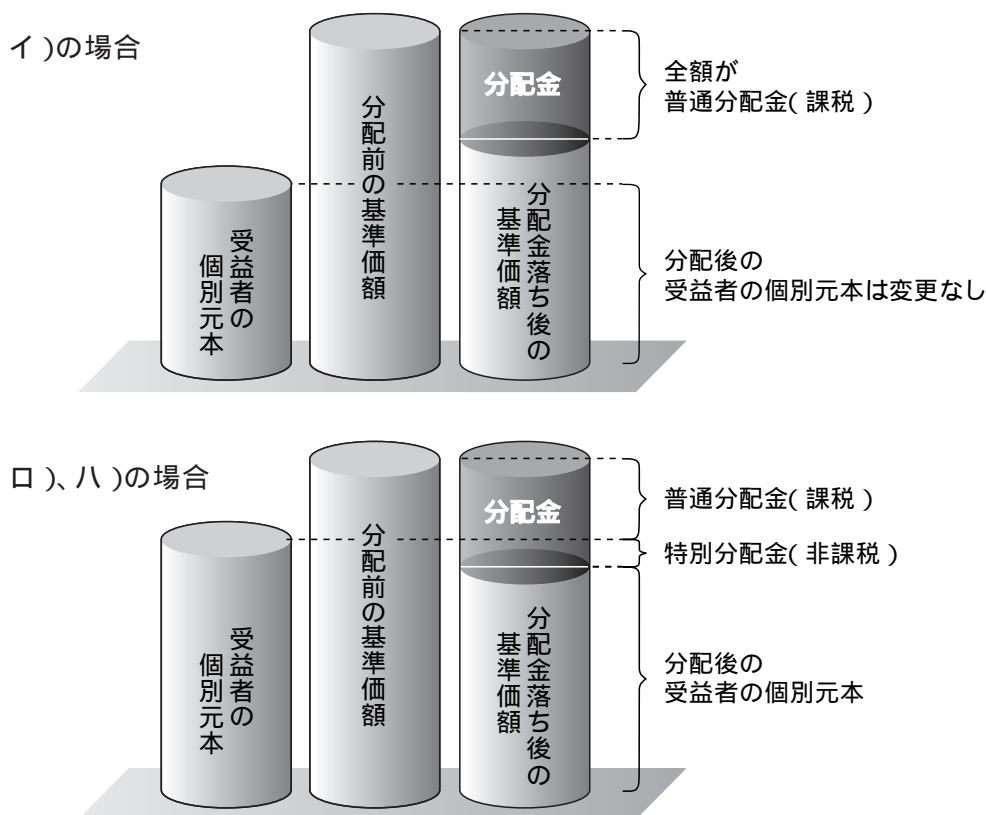
個別元本

- 1)各受益者の買付時の基準価額(申込手数料および当該手数料に係る消費税等相当額は含まれません。)が個別元本になります。
- 2)受益者が同一ファンドを複数回お申込みの場合、1口当たりの個別元本は、申込口数で加重平均した値となります。ただし、個別元本は、複数支店で同一ファンドをお申込みの場合などにより把握方法が異なる場合がありますので、販売会社にお問い合わせください。

普通分配金と特別分配金

- 1)収益分配金には課税扱いとなる「普通分配金」と非課税扱いとなる「特別分配金」(元本の一部払戻しに相当する部分)の区分があります。
- 2)受益者が収益分配金を受け取る際
 - イ)収益分配金落ち後の基準価額が、受益者の1口当たりの個別元本と同額かまたは上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。
 - ロ)収益分配金落ち後の基準価額が、受益者の1口当たりの個別元本を下回っている場合には、収益分配金の範囲内でその下回っている部分の額が特別分配金となり、収益分配金から特別分配金を控除した金額が普通分配金となります。
- 八)収益分配金発生時に、その個別元本から特別分配金を控除した額が、その後の受益者の個別元本となります。

< 分配金に関するイメージ図 >



税法が改正された場合などには、税率などの課税上の取扱いが変更になる場合があります。

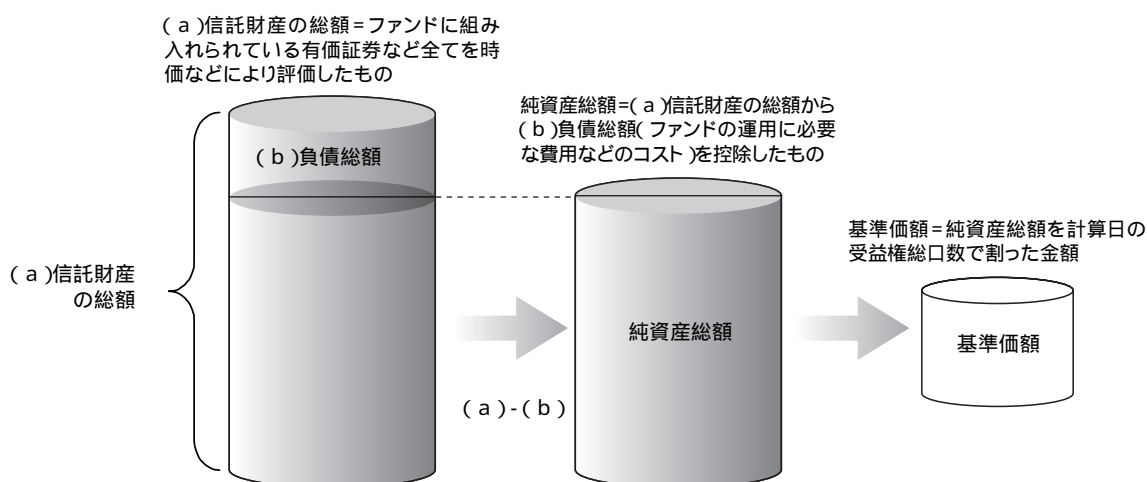
管理および運営

基準価額

基準価額の算出

- ・基準価額は委託会社の営業日において日々算出されます。
- ・基準価額とは、信託財産に属する資産を評価して得た信託財産の総額から負債総額を控除した金額(純資産総額)を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。なお、ファンドは1万口当りに換算した価額で表示することがあります。

< 基準価額算出の流れ >



有価証券などの評価基準

- ・信託財産に属する資産については、法令および社団法人投資信託協会規則に従って時価評価します。

< 主な資産の評価方法 >

マザーファンド受益証券	基準価額計算日の基準価額で評価します。
国内上場不動産投信	原則として、基準価額計算日におけるわが国の金融商品取引所の最終相場で評価します。
海外上場不動産投信	原則として、基準価額計算日に知りうる直近の日における外国金融商品市場の最終相場で評価します。

- ・外貨建資産(外国通貨表示の有価証券、預金その他の資産をいいます。)の円換算については、原則としてわが国における計算日の対顧客相場の仲値によって計算します。

運営方法について

償還

信託期間

無期限とします(平成16年3月26日設定)。ただし、約款の規定に基づき、信託契約を解約し、信託を終了させることがあります。

信託の終了(繰上償還)

- 1) 委託会社は、次のいずれかの場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し繰上償還させることができます。
 - イ) 受益者の解約により受益権の口数が10億口を下回る事となった場合
 - ロ) 繰上償還することが受益者のために有利であると認めるとき
 - ハ) やむを得ない事情が発生したとき
- 2) この場合、あらかじめ、その旨およびその理由などを公告し、かつ知られたる受益者に書面を交付します。ただし、全ての受益者に書面を交付した場合は、原則として公告を行いません。
- 3) この繰上償還に異議のある受益者は、一定の期間内(1ヵ月以上で委託会社が定めます。以下同じ。)に異議を述べるすることができます。(後述の「異議の申立て」をご覧ください。)
- 4) 委託会社は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときなどには、後述の「異議の申立て」の規定は適用せず、信託契約を解約し繰上償還させます。
- 5) 繰上償還を行なう際には、委託会社は、その旨をあらかじめ監督官庁に届け出ます。

償還金について

- ・ 償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日(原則として償還日(償還日が休業日の場合は翌営業日)から起算して5営業日まで)から受益者に支払います。
- ・ 償還金の支払いは、販売会社において行なわれます。

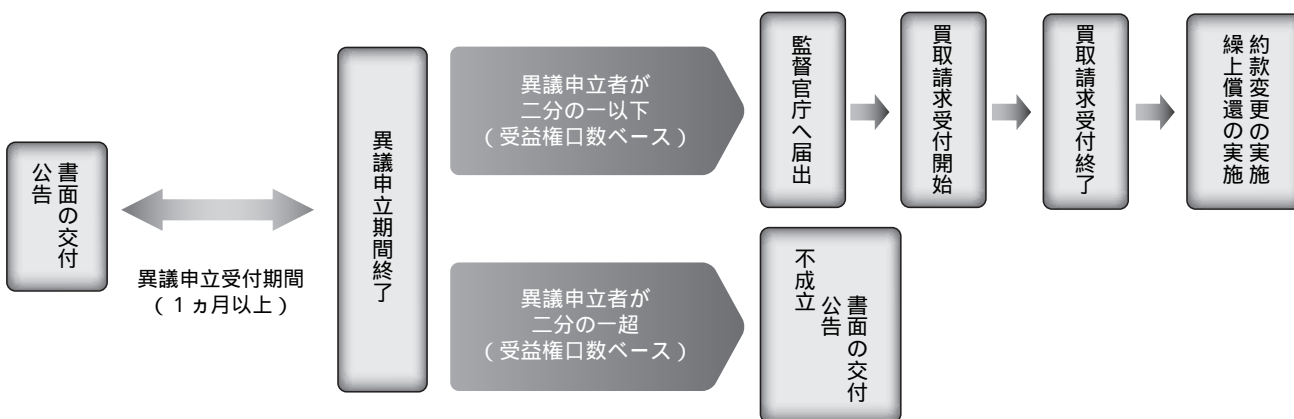
信託約款の変更

- 1) 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意の上、この信託約款を変更することができます。信託約款の変更を行なう際には、委託会社は、その旨をあらかじめ監督官庁に届け出ます。
- 2) この変更事項のうち、その内容が重大なものについては、あらかじめ、その旨およびその内容などを公告し、かつ知られたる受益者に書面を交付します。ただし、全ての受益者に書面を交付した場合は、原則として公告を行ないません。
- 3) この信託約款の変更に関する異議のある受益者は、一定の期間内に異議を述べるすることができます。(後述の「異議の申立て」をご覧ください。)
- 4) 委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、後述の「異議の申立て」の規定を適用します。

異議の申立て

- 1) 繰上償還または信託約款の重大な変更に対して、受益者は一定の期間内に委託会社に対して所定の手続きにより異議を述べるすることができます。一定の期間内に、異議を述べた受益者の受益権口数が受益権総口数の二分の一を超えるときは、繰上償還または信託約款の変更は行ないません。
- 2) 委託会社は、繰上償還または信託約款の変更を行わない場合は、その旨およびその理由などを公告し、かつ知られたる受益者に書面を交付します。ただし、全ての受益者に書面を交付した場合は、原則として公告を行ないません。
- 3) なお、一定の期間内に、異議を述べた受益者の受益権口数が受益権総口数の二分の一以下で、繰上償還、信託約款の変更を行なう場合は、異議を述べた受益者は受託会社に対し、自己に帰属する受益権を信託財産をもって買い取るべき旨を請求できます。

< 繰上償還、信託約款の重大な変更を行なう場合の手続きの流れ >



運営方法について

公告

公告は日本経済新聞に掲載します。

その他

内国投資信託受益証券の形態等

- ・追加型証券投資信託受益権です。
- ・格付は取得しておりません。

ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後述の「振替機関に関する事項」に記載の振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります(振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。)。委託会社は、やむを得ない事情などがある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

発行(売出)価額の総額

5兆円を上限とします。

払込期日および払込取扱場所

- ・取得申込者は、申込金額を販売会社が指定する期日までに販売会社に支払うものとします。
- ・申込期間における各取得申込受付日の発行価額の総額(設定総額)は、販売会社によって、追加設定が行なわれる日に委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座に払い込まれます。

振替機関に関する事項

振替機関は、株式会社証券保管振替機構とします。

信託金限度額

- ・8,000億円を限度として信託金を追加することができます。
- ・委託会社は受託会社と合意のうえ、当該限度額を変更することができます。

計算期間

毎月6日から翌月5日までとします。ただし、各計算期間の末日が休業日のときはその翌営業日を計算期間の末日とし、その翌日より次の計算期間が開始されます。

委託会社の概況(平成22年8月末現在)

- 1)名称
日興アセットマネジメント株式会社
- 2)代表者の役職氏名
取締役社長 ピリー・ウェード・ワイルダー
- 3)本店の所在の場所
東京都港区赤坂九丁目7番1号
- 4)資本金
17,363百万円
- 5)沿革
昭和34年:日興証券投資信託委託株式会社として設立
平成11年:日興国際投資顧問株式会社と合併し「日興アセットマネジメント株式会社」に社名変更
- 6)大株主の状況

名称	住所	所有株数	所有比率
住友信託銀行株式会社	大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号	194,152,500株	98.54%

受益者の権利等

受益者の有する主な権利は次の通りです。

- ・収益分配金・償還金受領権
- ・解約請求権
- ・帳簿閲覧権

運営方法について

内国投資信託受益証券事務の概要

名義書換

受益者は、委託会社がやむを得ない事情などにより受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求を行なわないものとします。

受益者に対する特典

該当事項はありません。

譲渡制限の内容

譲渡制限はありません。

受益権の譲渡

- ・受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。
- ・前述の申請のある場合には、振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等(当該他の振替機関等の上位機関を含みます。)に社債、株式等の振替に関する法律の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行なわれるよう通知するものとします。
- ・前述の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合などにおいて、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

受益証券の再発行

受益者は、委託会社がやむを得ない事情などにより受益証券を発行する場合を除き、受益証券の再発行の請求を行なわないものとします。

受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社債、株式等の振替に関する法律に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、解約請求の受付、解約金および償還金の支払いなどについては、約款の規定によるほか、民法その他の法令などにしたがって取り扱われます。

ファンドの詳細情報の項目

有価証券届出書「第三部 ファンドの詳細情報」(投資信託説明書(請求目論見書))の記載項目は以下の通りです。

- 第1 ファンドの沿革
- 第2 手続等
 - 1 申込(販売)手続等
 - 2 換金(解約)手続等
- 第3 管理及び運営
 - 1 資産管理等の概要
 - (1)資産の評価
 - (2)保管
 - (3)信託期間
 - (4)計算期間
 - (5)その他
 - 2 受益者の権利等
- 第4 ファンドの経理状況
 - 1 財務諸表
 - (1)貸借対照表
 - (2)損益及び剰余金計算書
 - (3)注記表
 - (4)附属明細表
 - 2 ファンドの現況
 - 純資産額計算書
- 第5 設定及び解約の実績

上記の情報については、EDINET(エディネット)でもご覧いただくことができます。

Electronic Disclosure for Investors' NETworkの略で、「金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム」の愛称です。投資家はEDINETを利用することにより、インターネットを通じてファンドの有価証券届出書や有価証券報告書などを閲覧することができます。

運用の状況について

ファンドの運用状況

以下の運用状況は平成 22 年 7 月 30 日現在です。

・投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(1) 投資状況

投資資産の種類	時価(千円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	349,226,287	98.99
日本	349,226,287	98.99
コール・ローン等、その他資産(負債控除後)	3,553,599	1.01
純資産総額	352,779,886	100.00

(2) 投資資産

投資有価証券の主要銘柄

イ 評価額上位銘柄明細

< 親投資信託受益証券 >

通貨 国・地域	種類 業種	銘柄名	数量又は 券面総額	簿価単価(円) 評価単価(円)	簿価額(円) 評価額(円)	投資比率 (%)
日本円 日本	親投資信託受益証券 -	世界REITマザーファンド	381,459,625,793	0.8369 0.9155	319,251,853,209 349,226,287,413	98.99

ロ 種類別及び業種別の投資比率

種類別及び業種別	投資比率(%)
親投資信託受益証券	98.99
合計	98.99

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

(3) 運用実績

純資産の推移

期別	1口当たりの純資産額(円)		純資産総額(百万円)	
	分配落ち	分配付き	分配落ち	分配付き
設 定 時(2004年3月26日)	1.0000	1.0000	9,196	9,196
第1特定期間末(2004年7月5日)	0.9825	0.9865	17,010	17,078
第2特定期間末(2005年1月5日)	1.1001	1.1241	27,552	28,052
第3特定期間末(2005年7月5日)	1.2087	1.2327	32,489	33,128
第4特定期間末(2006年1月5日)	1.3044	1.3344	29,187	29,828
第5特定期間末(2006年7月5日)	1.4002	1.4332	33,235	33,954
第6特定期間末(2007年1月5日)	1.6750	1.7110	42,394	43,226
第7特定期間末(2007年7月5日)	1.6984	1.7344	41,597	42,469
第8特定期間末(2008年1月7日)	1.2098	1.2578	26,112	27,116
第9特定期間末(2008年7月7日)	1.0583	1.1183	32,702	34,151
第10特定期間末(2009年1月5日)	0.4899	0.5499	28,562	31,497
第11特定期間末(2009年7月6日)	0.4061	0.4561	137,922	146,980
第12特定期間末(2010年1月5日)	0.4946	0.5376	247,843	267,282
第13特定期間末(2010年7月5日)	0.4126	0.4546	300,853	326,772

(注) 分配付きの金額は、特定期間末の金額に当該特定期間中の分配金累計額を加算した金額です。

	1口当たりの純資産額(円)	純資産総額(百万円)
2009年7月末日	0.4460	175,651
2009年8月末日	0.4824	203,582
2009年9月末日	0.4910	214,211
2009年10月末日	0.4785	218,189
2009年11月末日	0.4530	215,307
2009年12月末日	0.5000	250,059
2010年1月末日	0.4623	237,827
2010年2月末日	0.4583	255,464
2010年3月末日	0.5030	298,059
2010年4月末日	0.5245	317,073
2010年5月末日	0.4573	298,448
2010年6月末日	0.4307	307,493
2010年7月末日	0.4521	352,779

分配の推移

	1口当たり税込み分配金(円)
第1特定期間(2004年3月26日～2004年7月5日)	0.0040
第2特定期間(2004年7月6日～2005年1月5日)	0.0240
第3特定期間(2005年1月6日～2005年7月5日)	0.0240
第4特定期間(2005年7月6日～2006年1月5日)	0.0300
第5特定期間(2006年1月6日～2006年7月5日)	0.0330
第6特定期間(2006年7月6日～2007年1月5日)	0.0360
第7特定期間(2007年1月6日～2007年7月5日)	0.0360
第8特定期間(2007年7月6日～2008年1月7日)	0.0480
第9特定期間(2008年1月8日～2008年7月7日)	0.0600
第10特定期間(2008年7月8日～2009年1月5日)	0.0600
第11特定期間(2009年1月6日～2009年7月6日)	0.0500
第12特定期間(2009年7月7日～2010年1月5日)	0.0430
第13特定期間(2010年1月6日～2010年7月5日)	0.0420

運用の状況について

収益率の推移

	収益率 (%)
第1特定期間 (2004年3月26日 ~ 2004年7月5日)	1.35
第2特定期間 (2004年7月6日 ~ 2005年1月5日)	14.41
第3特定期間 (2005年1月6日 ~ 2005年7月5日)	12.05
第4特定期間 (2005年7月6日 ~ 2006年1月5日)	10.40
第5特定期間 (2006年1月6日 ~ 2006年7月5日)	9.87
第6特定期間 (2006年7月6日 ~ 2007年1月5日)	22.20
第7特定期間 (2007年1月6日 ~ 2007年7月5日)	3.55
第8特定期間 (2007年7月6日 ~ 2008年1月7日)	25.94
第9特定期間 (2008年1月8日 ~ 2008年7月7日)	7.56
第10特定期間 (2008年7月8日 ~ 2009年1月5日)	48.04
第11特定期間 (2009年1月6日 ~ 2009年7月6日)	6.90
第12特定期間 (2009年7月7日 ~ 2010年1月5日)	32.38
第13特定期間 (2010年1月6日 ~ 2010年7月5日)	8.09

(注) 各特定期間の収益率は、特定期間末の基準価額 (分配額の額) から当該特定期間の直前の特定期間末の基準価額 (分配額の額。以下、「前期末基準価額」といいます。) を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。

(参考)世界REITマザーファンド

以下の運用状況は平成22年7月30日現在です。

- ・投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。
- ・為替予約取引の金額は、わが国における対顧客先物相場の仲値で評価しています。

(1) 投資状況

投資資産の種類	時価(千円)	投資比率(%)
投資証券	341,803,866	97.58
アメリカ	183,707,486	52.44
オーストラリア	40,841,630	11.66
フランス	26,862,611	7.67
イギリス	23,799,572	6.79
日本	22,271,079	6.36
オランダ	14,816,234	4.23
香港	9,377,303	2.68
シンガポール	8,651,773	2.47
カナダ	8,048,345	2.30
ベルギー	2,901,843	0.83
ドイツ	525,986	0.15
為替予約取引(買建)	(836,610)	(0.24)
コール・ローン等、その他資産(負債控除後)	8,484,472	2.42
純資産総額	350,288,339	100.00

(2) 投資資産

投資有価証券の主要銘柄

イ 評価額上位銘柄明細

< 投資証券 >

通貨 国・地域	種類 業種	銘柄名	数量又は 券面総額	簿価単価(円) 評価単価(円)	簿価額(円) 評価額(円)	投資比率 (%)
アメリカドル アメリカ	投資証券 -	SIMON PROPERTY GROUP INC-REIT	3,023,256	6,948 7,624	21,006,660,353 23,047,885,837	6.58
ユーロ フランス	投資証券 -	UNIBAIL-RODAMCO SE	1,083,353	16,268 16,963	17,624,221,105 18,376,938,606	5.25
オーストラリアドル オーストラリア	投資証券 -	WESTFIELD GROUP	16,391,398	976 958	15,992,901,942 15,706,375,251	4.48
アメリカドル アメリカ	投資証券 -	VORNADO REALTY TRUST	2,137,484	6,214 7,145	13,283,363,113 15,272,209,893	4.36
アメリカドル アメリカ	投資証券 -	AVALONBAY COMMUNITIES INC	1,669,546	7,318 9,068	12,217,516,469 15,139,364,659	4.32
アメリカドル アメリカ	投資証券 -	PUBLIC STORAGE	1,654,718	7,206 8,556	11,923,589,748 14,157,032,513	4.04
アメリカドル アメリカ	投資証券 -	VENTAS INC	2,436,681	3,836 4,368	9,348,082,755 10,643,291,027	3.04
アメリカドル アメリカ	投資証券 -	BOSTON PROPERTIES INC	1,502,450	6,095 7,031	9,157,925,446 10,564,281,857	3.02
アメリカドル アメリカ	投資証券 -	EQUITY RESIDENTIAL-REIT	2,465,900	3,127 3,920	7,710,539,583 9,665,605,491	2.76
香港ドル 香港	投資証券 -	LINK REIT	41,494,329	219 226	9,090,277,945 9,377,303,411	2.68
オーストラリアドル オーストラリア	投資証券 -	DEXUS PROPERTY GROUP	135,610,946	65 64	8,787,170,637 8,729,920,746	2.49
オーストラリアドル オーストラリア	投資証券 -	GPT GROUP	36,075,034	228 227	8,230,102,366 8,191,460,568	2.34
アメリカドル アメリカ	投資証券 -	FEDERAL REALTY INVESTMENT TRUST-REIT	1,172,887	6,001 6,755	7,038,515,214 7,922,613,589	2.26

運用の状況について

日本円 日本	投資証券 -	日本ビルファンド投資法人 投資証券	10,580	739,097 736,000	7,819,641,905 7,786,880,000	2.22
アメリカドル アメリカ	投資証券 -	AMB PROPERTY CORPORATION	3,625,485	2,212 2,100	8,018,144,992 7,613,061,689	2.17
イギリスポンド イギリス	投資証券 -	BRITISH LAND COMPANY PLC	12,025,203	632 632	7,595,000,422 7,598,755,357	2.17
日本円 日本	投資証券 -	ジャパンリアルエステイト投資法人 投資証券	9,848	717,320 765,000	7,064,167,657 7,533,720,000	2.15
アメリカドル アメリカ	投資証券 -	HOST HOTELS & RESORTS INC	5,192,011	1,067 1,242	5,538,006,347 6,446,110,105	1.84
アメリカドル アメリカ	投資証券 -	SENIOR HOUSING PROPERTIES TRUST	3,160,553	1,871 1,945	5,911,944,999 6,146,267,369	1.75
アメリカドル アメリカ	投資証券 -	REGENCY CENTERS CORPORATION	1,882,268	3,052 3,243	5,745,400,973 6,103,404,571	1.74
ユーロ オランダ	投資証券 -	CORIO NV	1,137,486	5,278 5,088	6,003,475,459 5,787,915,513	1.65
シンガポールドル シンガポール	投資証券 -	ASCENDAS REAL ESTATE INVESTMENT TRUST	41,829,217	128 133	5,337,471,390 5,551,364,534	1.58
イギリスポンド イギリス	投資証券 -	HAMMERSON PLC	9,137,856	544 528	4,970,928,289 4,821,961,263	1.38
ユーロ フランス	投資証券 -	KLEPIERRE	1,719,118	2,866 2,779	4,926,647,947 4,777,532,069	1.36
アメリカドル アメリカ	投資証券 -	DOUGLAS EMMETT INC	3,373,621	1,251 1,366	4,221,330,591 4,606,763,816	1.32
カナダドル カナダ	投資証券 -	CANADIAN REAL ESTATE INVESTMENT TRUST	1,757,007	2,282 2,540	4,010,298,610 4,462,249,594	1.27
アメリカドル アメリカ	投資証券 -	BIOMED REALTY TRUST INC	2,687,181	1,417 1,557	3,807,441,162 4,184,295,525	1.19
アメリカドル アメリカ	投資証券 -	SL GREEN REALTY CORP	807,290	4,390 5,167	3,544,160,313 4,171,525,763	1.19
アメリカドル アメリカ	投資証券 -	TAUBMAN CENTERS INC	1,160,888	3,230 3,584	3,749,634,367 4,160,829,230	1.19
アメリカドル アメリカ	投資証券 -	CORPORATE OFFICE PROPERTIES TRUST	1,261,987	3,286 3,264	4,146,654,039 4,119,447,375	1.18

□ 種類別及び業種別の投資比率

種類別及び業種別	投資比率 (%)
投資証券	97.58
合計	97.58

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

< 為替予約取引 >

名称	種類	契約額等 (円)	評価額 (円)	投資比率 (%)
ユーロ	買建	566,530,000	565,950,000	0.16
イギリスポンド	買建	270,610,000	270,660,000	0.08
合計		837,140,000	836,610,000	0.24

財務ハイライト情報

- (1) 以下の情報は、有価証券届出書「第三部 ファンドの詳細情報 第4 ファンドの経理状況」に記載されている「財務諸表」から抜粋して記載したものです。
- (2) 「財務諸表」については、あらた監査法人による監査を受けております。また、当該監査法人による監査報告書は、有価証券届出書「第三部 ファンドの詳細情報 第4 ファンドの経理状況」に記載されている「財務諸表」に添付されています。

ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)

<貸借対照表>

(単位:円)

科目	期別	前期	当期
		平成22年1月5日現在 金額	平成22年7月5日現在 金額
資産の部			
流動資産			
コール・ローン		7,398,364,015	5,176,477,325
親投資信託受益証券		245,436,665,258	297,903,070,416
未収入金		3,116,904,694	3,628,005,498
流動資産合計		255,951,933,967	306,707,553,239
資産合計		255,951,933,967	306,707,553,239
負債の部			
流動負債			
未払収益分配金		3,507,629,675	5,104,542,012
未払解約金		4,300,728,609	371,847,004
未払受託者報酬		15,969,774	20,094,512
未払委託者報酬		283,463,660	356,677,752
その他未払費用		591,529	728,924
流動負債合計		8,108,383,247	5,853,890,204
負債合計		8,108,383,247	5,853,890,204
純資産の部			
元本等			
元本		501,089,953,696	729,220,287,565
剰余金			
期末剰余金又は期末欠損金()		253,246,402,976	428,366,624,530
(分配準備積立金)		14,099,519,404	6,333,877,616
元本等合計		247,843,550,720	300,853,663,035
純資産合計		247,843,550,720	300,853,663,035
負債純資産合計		255,951,933,967	306,707,553,239

運用の状況について

< 損益及び剰余金計算書 >

(単位：円)

科目	期別	前期	当期
		自平成21年7月7日 至平成22年1月5日 金額	自平成22年1月6日 至平成22年7月5日 金額
営業収益			
受取利息		1,529,113	1,603,926
有価証券売買等損益		58,635,027,599	24,362,766,633
営業収益合計		58,636,556,712	24,361,162,707
営業費用			
受託者報酬		87,223,366	116,885,731
委託者報酬		1,548,215,939	2,074,722,814
その他費用		3,275,390	4,272,863
営業費用合計		1,638,714,695	2,195,881,408
営業利益又は営業損失()		56,997,842,017	26,557,044,115
経常利益又は経常損失()		56,997,842,017	26,557,044,115
当期純利益又は当期純損失()		56,997,842,017	26,557,044,115
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額		3,179,171,000	614,328,874
期首剰余金又は期首欠損金()		201,688,634,882	253,246,402,976
剰余金増加額又は欠損金減少額		103,578,998,756	67,157,060,584
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		103,578,998,756	67,157,060,584
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		-	-
剰余金減少額又は欠損金増加額		189,516,798,633	189,186,966,930
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		-	-
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		189,516,798,633	189,186,966,930
分配金		19,438,639,234	25,918,942,219
期末剰余金又は期末欠損金()		253,246,402,976	428,366,624,530

< 重要な会計方針に係る事項に関する注記 >

項目	期別	前期	当期
		自平成21年7月7日 至平成22年1月5日	自平成22年1月6日 至平成22年7月5日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法		親投資信託受益証券 移動平均法に基づき当該親投資信託受益証券の基準価額で評価しております。	親投資信託受益証券 同左
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項		当ファンドの計算期間は原則として、毎月6日から翌月5日までとなっております。ただし、各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます。)が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日以降の営業日である日のうち、該当日に最も近い日とし、その翌日より次の計算期間が始まるものといたしますので、当特定期間は平成21年7月7日から平成22年1月5日までとなっております。	-

約款

<追加型証券投資信託 ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)>

運用の基本方針

約款第21条の規定に基づき、委託者が別に定める運用の基本方針は次のものとします。

基本方針

この投資信託は、安定した収益の確保と中長期的な信託財産の成長を目標として運用を行ないます。

運用方法

(1)投資対象

世界REITマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。

(2)投資態度

主として、世界REITマザーファンド受益証券に投資を行ない、安定した収益の確保と中長期的な信託財産の成長を目指し運用を行ないます。

マザーファンド受益証券の組入率は高位を保つことを原則とします。なお、資金動向等によっては組入率を引き下げることがあります。

ただし、市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準となったとき等やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

運用制限

(1)投資信託証券、短期社債等(社債、株式等の振替に関する法律(以下「社振法」といいます。)第66条第1号に規定する短期社債、同法第117条に規定する相互会社の社債、同法第118条に規定する特定社債および同法第120条に規定する特別法人債をいいます。)、コマースシャル・ペーパーおよび指定金銭信託以外の有価証券への直接投資は行ないません。

(2)有価証券先物取引等の派生商品取引の指図ならびに有価証券の貸付、空売りおよび借入れの指図は行ないません。

(3)投資信託証券への実質投資割合には、制限を設けません。

(4)同一銘柄の投資信託証券(マザーファンドの受益証券を除きます。)への実質投資は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。

(5)外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。

(6)外国為替の売買の予約取引の指図は、約款第24条の範囲で行ないます。

収益分配方針

第1計算期から第3計算期までは、収益分配を行ないません。第4計算期以降、毎決算時に、原則として次の通り収益分配を行ないます。

分配対象額の範囲

経費控除後の利子・配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。

分配対象額についての分配方針

分配金額は、委託者が決定するものとし、原則として、安定した分配を継続的に行なうことを目指します。

留保益の運用方針

収益分配に充てず信託財産内に留保した利益(無分配期の利益を含みます。)については、運用の基本方針に基づき運用を行ないます。

そ の 他

追加型証券投資信託 ラサール・グローバルREITファンド（毎月分配型） 約款

（信託の種類、委託者および受託者）

第1条 この信託は証券投資信託であり、日興アセットマネジメント株式会社を委託者とし、みずほ信託銀行株式会社を受託者とします。

この信託は、信託財産に属する財産についての対抗要件に関する事項を除き、信託法（大正11年法律第62号）の適用を受けます。

（信託事務の委託）

第2条 受託者は、信託法第26条第1項に基づく信託事務の委任として、この信託に関する信託事務の処理の一部について、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律第1条第1項の規定による信託業務の兼営の認可を受けた一の金融機関と信託契約を締結し、これを委託することができます。

（信託の目的、金額および追加信託の限度額）

第3条 委託者は、金91億9,645万7,937円を、受益者のために利殖の目的をもって信託し、受託者は、これを引き受けます。

委託者は、受託者と合意の上、金8,000億円を限度として信託金を追加できるものとし、追加信託を行なったときは、受託者はその引き受けを証する書面を委託者に交付します。

委託者は、受託者と合意の上、前項の限度額を変更することができます。

（信託期間）

第4条 この信託の期間は、信託契約締結日から第44条、第45条第1項、第46条第1項および第48条第2項の規定による解約の日までとします。

（受益権の取得申込の勧誘の種類）

第5条 この信託にかかる受益権の取得申込の勧誘は、金融商品取引法第2条第3項第1号に掲げる場合に該当し、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第8項で定める公募により行なわれます。

（当初の受益者）

第6条 この信託契約締結当初および追加信託当初の受益者は、委託者の指定する受益権取得申込者とし、第7条により分割された受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属します。

（受益権の分割および再分割）

第7条 委託者は、第3条第1項による受益権については91億9,645万7,937口に、追加信託によって生じた受益権については、これを追加信託のつど第8条第1項の追加口数に、それぞれ均等に分割します。

委託者は、受託者と協議の上、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとし、

（追加信託の価額および口数、基準価額の計算方法）

第8条 追加信託金は、追加信託を行なう日の前営業日の基準価額に、当該追加信託にかかる受益権の口数を乗じた額とします。

この約款において基準価額とは、信託財産に属する資産を法令および社団法人投資信託協会規則に従って時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（以下「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。なお、外貨建資産（外国通貨表示の有価証券（以下「外貨建有価証券」といいます。））、預金その他の資産をいいます。以下同じ。）の円換算については、原則としてわが国における当日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。

第24条に規定する予約為替の評価は、原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。

（追加日時の異なる受益権の内容）

第9条 この信託の受益権は、信託の日時を異にすることにより差異を生ずることはありません。

（受益権の帰属と受益証券の不発行）

第10条 この信託の受益権は、平成19年1月4日より、社振法の規定の適用を受けることとし、同日以降に追加信託される受益権の帰属は、委託者があらかじめこの投資信託の受益権を取り扱うことについて同意した一の振替機関（社振法第2条に規定する「振替機関」をいい、以下「振替機関」といいます。）および当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。

委託者は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消さ

れた場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

なお、受益者は、委託者がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

委託者は、第7条の規定により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行なうものとします。振替機関等は、委託者から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行ないます。

委託者は、受益者を代理してこの信託の受益権を振替受入簿に記載または記録を申請することができるものとし、原則としてこの信託の平成18年12月29日現在の全ての受益権（受益権につき、既に信託契約の一部解約が行なわれたもので、当該一部解約にかかる一部解約金の支払開始日が平成19年1月4日以降となるものを含まず。）を受益者を代理して平成19年1月4日に振替受入簿に記載または記録するよう申請します。ただし、保護預かりではない受益証券に係る受益権については、信託期間中において委託者が受益証券を確認した後当該申請を行なうものとします。振替受入簿に記載または記録された受益権にかかる受益証券（当該記載または記録以降に到来する計算期間の末日にかかる収益分配金交付票を含まず。）は無効となり、当該記載または記録により振替受益権となります。また、委託者は、受益者を代理してこの信託の受益権を振替受入簿に記載または記録を申請する場合において、委託者の指定する第一種金融商品取引業者（委託者の指定する金融商品取引法第28条第1項に規定する第一種金融商品取引業を行なう者をいいます。以下同じ。）および委託者の指定する登録金融機関（委託者の指定する金融商品取引法第2条第11項に規定する登録金融機関をいいます。以下同じ。）に当該申請の手続きを委任することができます。

（受益権の設定に係る受託者の通知）

第11条 受託者は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行ないます。

（受益権の申込単位および価額）

第12条 委託者の指定する第一種金融商品取引業者および委託者の指定する登録金融機関は、第7条第1項の規定により分割される受益権を、その取得申込者に対し、委託者の指定する第一種金融商品取引業者または委託者の指定する登録金融機関が定める単位をもって取得の申込に応ずることができます。ただし、委託者の指定する第一種金融商品取引業者または委託者の指定する登録金融機関と別に定める自動けいぞく投資契約（以下「別に定める契約」といいます。）を結んだ取得申込者に限り、1口の整数倍をもって取得の申込に応ずることができるものとします。

前項の取得申込者は、委託者の指定する第一種金融商品取引業者または委託者の指定する登録金融機関に、取得申込と同時にまたは予め、自己のために開設されたこの信託の受益権の振替を行なうための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行なわれます。なお、委託者の指定する第一種金融商品取引業者および委託者の指定する登録金融機関は、当該取得申込の代金（第4項の受益権の価額に当該取得申込の口数を乗じて得た額をいいます。）の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行なうことができます。

第1項の規定にかかわらず、取得申込日がニューヨーク証券取引所の休業日、ニューヨークの銀行休業日またはオーストラリア証券取引所の休業日に該当する場合は、受益権の取得の申込に応じないものとします。

第1項の受益権の価額は、取得申込日の翌営業日の基準価額に、手数料および当該手数料に係る消費税および地方消費税（以下「消費税等」といいます。）に相当する金額を加算した価額とします。ただし、この信託契約締結日前の取得申込にかかる受益証券の価額は、1口につき1円に、手数料および当該手数料に係る消費税等に相当する金額を加算した価額とします。

前項の手数は、委託者の指定する第一種金融商品取引業者および委託者の指定する登録金融機関がそれぞれ独自に定めるものとします。

第4項の規定にかかわらず、受益者が別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する場合の受益権の価額は、原則として、第34条に規定する各計算期間終了日の基準価額とします。

証券投資信託の受益証券または受益権を信託終了時まで保有した受益者（信託期間を延長した証券投資信託（追加型証券投資信託にあっては、延長前の信託終了日（以下「当初の信託終了日」といいます。）以降、収益分配金の再投資以外の追加信託を行なわないものをいいます。以下本項において

そ の 他

同じ。)にあっては、当初の信託終了日まで当該信託の受益証券または受益権を保有した受益者をいいます。以下本項において同じ。)が、その償還金(信託期間を延長した証券投資信託にあっては、当初の信託終了日以降における当該信託の受益証券または受益権の買取請求にかかる売却代金または一部解約金を含みます。以下本項において同じ。)をもって、当該信託終了日(信託期間を延長した証券投資信託にあっては、当初の信託終了日以降における当該信託の受益証券または受益権の買取約定日または一部解約請求日を含みます。)の属する月の翌月の初日から起算して3ヵ月以内に、当該償還金の支払いを受けた委託者の指定する第一種金融商品取引業者または委託者の指定する登録金融機関でこの信託にかかる受益権の取得申込をする場合の1口当りの受益権の価額は、当該償還金額の範囲内(単位型証券投資信託にあっては、当該償還金額とその元本額とのいずれか大きい額)で取得する口数について取得申込日の翌営業日の基準価額に、取得申込を行う委託者の指定する第一種金融商品取引業者または委託者の指定する登録金融機関が独自に定める手数料および当該手数料に係る消費税等に相当する金額を加算した価額とします。

なお、委託者の指定する第一種金融商品取引業者または委託者の指定する登録金融機関は、当該受益者に対し、償還金の支払いを受けたことを証する書類の提示を求めることができます。

追加型証券投資信託の受益証券または受益権を保有する者が、当該信託の信託終了日の1年前の日以降に開始する委託者の指定する第一種金融商品取引業者または委託者の指定する登録金融機関が別に定める期間内に、当該信託の受益証券または受益権の買取請求にかかる売却代金または一部解約金ををもって、当該売却代金または一部解約金の支払いを受けた委託者の指定する第一種金融商品取引業者または委託者の指定する登録金融機関でこの信託にかかる受益権の取得申込をする場合の受益権の価額は、取得申込日の翌営業日の基準価額に、取得申込を行う委託者の指定する第一種金融商品取引業者または委託者の指定する登録金融機関が独自に定める手数料および当該手数料に係る消費税等に相当する金額を加算した価額とします。

前各項の規定にかかわらず、委託者は、投資対象とする投資信託証券(マザーファンドが投資対象とする投資信託証券を含みます。)への投資ができない場合、金融商品取引所(金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場をいいます。以下同じ。)における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、受益権の取得申込の受付を中止することおよび既に受け付けた取得申込の受付を取消すことができます。

(受益権の譲渡に係る記載または記録)

第13条 受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

前項の申請のある場合には、前項の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、前項の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等(当該他の振替機関等の上位機関を含みます。)に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行なわれるよう通知するものとします。

委託者は、第1項に規定する振替について、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託者が必要と認めるときまたはやむをえない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(受益権の譲渡の対抗要件)

第14条 受益権の譲渡は、前条の規定による振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託者および受託者に対抗することができません。

(無記名式の受益証券の再交付)

第15条 (削除)

(記名式の受益証券の再交付)

第16条 (削除)

(毀損した場合等の再交付)

第17条 (削除)

(受益証券の再交付の費用)

第18条 (削除)

(投資の対象とする資産の種類)

第19条 この信託において投資の対象とする資産の種類（投資信託及び投資法人に関する法律施行令第3条各号で定める特定資産の種類をいいます。）は、次に掲げるものとします。

1. 有価証券
2. 金銭債権
3. 約束手形

この信託においては、前項各号に掲げる資産のほか、次に掲げる資産を投資の対象とします。

1. 為替手形

（運用の指図範囲）

第20条 委託者は、信託金を、主として日興アセットマネジメント株式会社を委託者とし、みずほ信託銀行株式会社を受託者として締結された証券投資信託世界REITマザーファンド（その受益権を他の証券投資信託の信託財産に取得させることを目的とした証券投資信託であり、以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券ならびに次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

1. 短期社債等（社振法第66条第1号に規定する短期社債、同法第117条に規定する相互会社の社債、同法第118条に規定する特定社債および同法第120条に規定する特別法人債をいいます。）およびコマーシャル・ペーパー
2. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前号の証券の性質を有するもの
3. 投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいい、マザーファンドの受益証券を除きます。）
4. 投資証券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）のうち投資法人債券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）に類する証券以外のもの
5. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

なお、第3号および第4号の証券を以下「投資信託証券」といいます。

前項の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託者が運用上必要と認めるときは、委託者は、信託金を、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することの指図ができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形

（受託者の自己または利害関係人等との取引）

第20条の2 受託者は、受益者の保護に支障を生じることがないものであり、かつ信託業法、投資信託及び投資法人に関する法律ならびに関連法令に反しない場合には、委託者の指図により、信託財産と、受託者および受託者の利害関係人（金融機関の信託業務の兼営等に関する法律にて準用する信託業法第29条第2項第1号に規定する利害関係人をいいます。以下本条および第25条において同じ。）、第25条第1項に定める信託業務の委託先およびその利害関係人または受託者における他の信託財産との間で、第19条ならびに第20条第1項および第2項に定める資産への投資を行なうことができます。

前項の取扱いは、第22条、第24条および第29条から第31条までにおける委託者の指図による取引についても同様とします。

（運用の基本方針）

第21条 委託者は、信託財産の運用にあたっては、別に定める運用の基本方針にしたがって、その指図を行ないません。

（同一銘柄の投資信託証券への投資制限）

第22条 委託者は、信託財産に属する同一銘柄の投資信託証券（マザーファンドの受益証券を除きます。以下本条において同じ。）の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該投資信託証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の30を超えることとなる投資の指図をしません。

前項において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該有価証券の時価総額の割合を乗じて

そ の 他

得た額をいいます。

(特別の場合の外貨建有価証券への投資制限)

第23条 外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

(外国為替予約の指図)

第24条 委託者は、信託財産に属する外貨建資産の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する外貨建資産のうち信託財産に属するとみなした額との合計額について、当該外貨建資産の為替ヘッジのため、外国為替の売買の予約を指図することができます。

前項において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

(信託業務の委託等)

第25条 受託者は、委託者と協議の上、信託業務の一部について、信託業法第22条第1項に定める信託業務の委託をするときは、以下に掲げる基準のすべてに適合するもの(受託者の利害関係人を含みません。)を委託先として選定します。

1. 委託先の信用力に照らし、継続的に委託業務の遂行に懸念がないこと
2. 委託先の委託業務に係る実績等に照らし、委託業務を確実に処理する能力があると認められること
3. 信託財産の保管等を委託する場合においては、当該財産の分別管理を行なう体制が整備されていること
4. 内部管理に関する業務を適正に遂行するための体制が整備されていること

受託者は、前項に定める委託先の選定にあたっては、当該委託先が前項各号に掲げる基準に適合していることを確認するものとします。

前2項にかかわらず、受託者は、次の各号に掲げる業務(裁量性のないものに限ります。)を、受託者および委託者が適当と認める者(受託者の利害関係人を含みます。)に委託することができるものとします。

1. 信託財産の保存に係る業務
2. 信託財産の性質を変えない範囲内において、その利用または改良を目的とする業務
3. 委託者のみの指図により信託財産の処分およびその他の信託の目的の達成のために必要な行為に係る業務
4. 受託者が行なう業務の遂行にとって補助的な機能を有する行為

(有価証券の保管)

第26条 (削除)

(混蔵寄託)

第27条 金融機関または金融商品取引業者(金融商品取引法第28条第1項に規定する第一種金融商品取引業を行なう者および外国の法令に準拠して設立された法人でこの者に類する者をいいます。以下本条において同じ。)から、売買代金および償還金等について円貨で約定し円貨で決済する取引により取得した外国において発行された譲渡性預金証書またはコマーシャル・ペーパーは、当該金融機関または金融商品取引業者が保管契約を締結した保管機関に当該金融機関または金融商品取引業者の名義で混蔵寄託することができるものとします。

(信託財産の登記等および記載等の留保等)

第28条 信託の登記または登録をすることができる信託財産については、信託の登記または登録をすることとします。ただし、受託者が認める場合は、信託の登記または登録を留保することがあります。

前項ただし書きにかかわらず、受益者保護のために委託者または受託者が必要と認めるときは、速やかに登記または登録をするものとします。

信託財産に属する旨の記載または記録をすることができる信託財産については、信託財産に属する旨の記載または記録をするとともに、その計算を明らかにする方法により分別して管理するものとします。ただし、受託者が認める場合は、その計算を明らかにする方法により分別して管理することがあります。

動産(金銭を除きます。)については、外形上区別することができる方法によるほか、その計算を明らかにする方法により分別して管理することがあります。

(一部解約の請求および有価証券の売却等の指図)

第29条 委託者は、信託財産に属するマザーファンドの受益証券にかかる信託契約の一部解約の請求および

信託財産に属する有価証券の売却等の指図ができます。

(再投資の指図)

第30条 委託者は、前条の規定による一部解約の代金および売却代金、有価証券に係る償還金等、有価証券等に係る利子等およびその他の収入金を再投資することの指図ができます。

(資金の借入れ)

第31条 委託者は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。)を目的として、および再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行なわないものとします。

前項の資金借入額は、次の各号に掲げる要件を満たす範囲内の額とします。

1. 一部解約に伴う支払資金の手当てにあたっては、一部解約金の支払資金の手当のために行なった有価証券等の売却または解約等ならびに有価証券等の償還による受取りの確定している資金の額の範囲内
2. 再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てにあたっては、収益分配金の再投資額の範囲内
3. 借入れ指図を行なう日における信託財産の純資産総額の10%以内

一部解約に伴う支払資金の手当てのための借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とします。

再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てのための借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとします。

借入金の利息は信託財産中から支弁します。

(損益の帰属)

第32条 委託者の指図に基づく行為により信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。

(受託者による資金の立替え)

第33条 信託財産に属する有価証券について、借替がある場合で、委託者の申出があるときは、受託者は、資金の立替えをすることができます。

信託財産に属する有価証券に係る償還金等、有価証券等に係る利子等およびその他の未収入金で、信託終了日までにその金額を見積りうるものがあるときは、受託者がこれを立替えて信託財産に繰り入れることができます。

前2項の立替金の決済および利息については、受託者と委託者との協議によりそのつど別にこれを定めます。

(信託の計算期間)

第34条 この信託の計算期間は、毎月6日から翌月5日までとすることを原則とします。

前項にかかわらず、前項の原則により各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます。)が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、第1計算期間は平成16年3月26日から平成16年4月5日までとし、最終計算期間の終了日は第4条に定める信託期間の終了日とします。

(信託財産に関する報告)

第35条 受託者は、毎計算期末に損益計算を行ない、信託財産に関する報告書を作成して、これを委託者に提出します。

受託者は、信託終了のときに最終計算を行ない、信託財産に関する報告書を作成して、これを委託者に提出します。

(信託事務等の諸費用)

第36条 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託者の立替えた立替金の利息、信託財産の財務諸表の監査に要する費用ならびに当該費用に係る消費税等相当額(以下「諸経費」といいます。)は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

(信託報酬等の額)

第37条 委託者および受託者の信託報酬の総額は、第34条に規定する計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年10,000分の150の率を乗じて得た額とします。

前項の信託報酬は、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁するものとし、委託者と

そ の 他

受託者との間の配分は別に定めます。

第1項の信託報酬に係る消費税等に相当する金額を、信託報酬支弁の時に信託財産中から支弁します。

委託者は、主要投資対象とするマザーファンドの運用の指図に関する権限の委託を受けたものが受ける報酬を第1項に基づいて委託者が受ける報酬から支弁するものとし、その報酬額は、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額に、当該マザーファンドの純資産総額に応じて下記の率を乗じて得た金額とします。

当該マザーファンドの純資産総額が100億円以下の部分	年万分の55
“	100億円超 500億円以下の部分 年万分の50
“	500億円超の部分 年万分の40

(収益分配)

第38条 信託財産から生ずる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。ただし、第1、第2および第3計算期末には、収益の分配は行ないません。

1. 配当金、利子、貸付有価証券に係る品貸料およびこれ等に類する収益から支払利息を控除した額(以下「配当等収益」といいます。)は、諸経費、信託報酬および当該信託報酬に係る消費税等に相当する金額を控除した後、その残額を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金にあてるため、その一部を分配準備積立金として積み立てることができます。
2. 売買損益に評価損益を加減した利益金額(以下「売買益」といいます。)は、諸経費、信託報酬および当該信託報酬に係る消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、分配準備積立金として積み立てることができます。

毎計算期末において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰越します。

(収益分配金、償還金および一部解約金の払い込みと支払いに関する受託者の免責)

第39条 受託者は、収益分配金については、原則として毎計算期間終了日の翌営業日までに、償還金(信託終了時における信託財産の純資産総額を受益権口数で除した額をいいます。以下同じ。)については第40条第3項に規定する支払開始日までに、一部解約金については第40条第4項に規定する支払日までに、その全額を委託者の指定する預金口座等に払い込みます。

受託者は、前項の規定により委託者の指定する預金口座等に収益分配金、償還金および一部解約金を払い込んだ後は、受益者に対する支払いにつき、その責に任じません。

(収益分配金、償還金および一部解約金の支払い)

第40条 収益分配金は、第1、第2および第3計算期間を除く毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託者の指定する日から、毎計算期間の末日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前において一部解約が行なわれた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため委託者の指定する第一種金融商品取引業者または委託者の指定する登録金融機関の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としてします。)に支払います。なお、平成19年1月4日以降においても、第42条に規定する時効前の収益分配金にかかる収益分配金交付票は、なおその効力を有するものとし、当該収益分配金交付票と引き換えに受益者に支払います。

前項の規定にかかわらず、別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、受託者が委託者の指定する預金口座等に払い込むことにより、原則として、毎計算期間終了日の翌営業日に収益分配金が委託者の指定する第一種金融商品取引業者および委託者の指定する登録金融機関に支払われます。この場合、委託者の指定する第一種金融商品取引業者および委託者の指定する登録金融機関は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資にかかる受益権の取得の申込に応じたものとし、当該取得により増加した受益権は、第10条第3項の規定にしたがい、振替口座簿に記載または記録されます。ただし、第43条第4項により信託の一部解約が行なわれた場合に、当該受益権に帰属する収益分配金があるときは、第1項の規定に準じて受益者に支払います。

償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託者の指定する日から、信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(信託終了日以前において一部解約が行なわれた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため委託者の指定する第一種金融商品取引業者または委託者の指定する登録金融機関の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としてします。)に支払います。なお、当該受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して委託者がこの信託の償還をするのと引き換えに、当該償還に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行なうものとし、社振法の規定にした

がい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行なわれます。また、受益証券を保有している受益者に対しては、償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託者の指定する日から受益証券と引き換えに当該受益者に支払います。

一部解約金は、第43条第1項の受益者の請求を受け付けた日から起算して、原則として5営業日目から当該受益者に支払います。

前各項に規定する収益分配金、償還金および一部解約金の支払いは、委託者の指定する第一種金融商品取引業者および委託者の指定する登録金融機関の営業所等において行なうものとします。

収益分配金、償還金および一部解約金にかかる収益調整金は、原則として、受益者ごとの信託時の受益権の価額等に応じて計算されるものとします。

(受益証券の保護預り等)

第41条 (削除)

(収益分配金および償還金の時効)

第42条 受益者が、収益分配金については第40条第1項に規定する支払開始日から5年間その支払いを請求しないとき、ならびに信託終了による償還金については第40条第3項に規定する支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託者から交付を受けた金銭は、委託者に帰属します。

(一部解約)

第43条 受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託者に1口単位をもって一部解約の実行を請求することができます。

平成19年1月4日以降の信託契約の一部解約に係る一部解約の実行の請求を受益者がするときは、委託者の指定する第一種金融商品取引業者または委託者の指定する登録金融機関に対し、振替受益権をもって行なうものとします。ただし、平成19年1月4日以降に一部解約金が受益者に支払われることとなる一部解約の実行の請求で、平成19年1月4日以前に行なわれる当該請求については、振替受益権となることが確実な受益証券をもって行なうものとします。

前2項の規定にかかわらず、一部解約の実行の請求日がニューヨーク証券取引所の休業日、ニューヨークの銀行休業日またはオーストラリア証券取引所の休業日に該当する場合は、受益権の一部解約の実行を受け付けないものとします。

委託者は、第1項の一部解約の実行の請求を受け付けた場合には、この信託契約の一部を解約します。なお、第1項の一部解約の実行の請求を行なう受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの信託契約の一部解約を委託者が行なうのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行なうものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行なわれます。

前項の一部解約の価額は、一部解約の実行の請求日の翌営業日の基準価額とします。

委託者は、投資対象とする投資信託証券(マザーファンドが投資対象とする投資信託証券を含みます。)からの換金ができない場合、金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、第1項による一部解約の実行の請求の受付を中止することおよび既に受け付けた一部解約の実行の請求の受付を取消することができます。

前項により一部解約の実行の請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止当日およびその前営業日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日(この計算日が第3項に規定する一部解約の請求を受け付けられない日であるときは、この計算日以降の最初の一部解約の請求を受け付けることができる日とします。)を一部解約の実行の請求日として、第5項の規定に準じて算定した価額とします。

委託者は、信託契約の一部を解約することにより、受益権の口数が10億口を下ることとなった場合には、第44条の規定に従ってこの信託契約を解約し、信託を終了させることができます。

(質権口記載または記録の受益権の取り扱い)

第43条の2 振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受け付け、一部解約金および償還金の支払い等については、この約款によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

(信託契約の解約)

第44条 委託者は、信託期間中において、この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意の上、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監

そ の 他

督官庁に届け出るものとします。

委託者は、前項の規定に基づいてこの信託契約を解約する場合は、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面をこの信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約に係る全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

前項の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

前項の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるとときは、第1項の信託契約の解約を行いません。

委託者は、この信託契約の解約を行わないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約に係る全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

前3項の規定は、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、第3項の一定の期間が一月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合は、適用しないものとします。

(信託契約に関する監督官庁の命令)

第45条 委託者は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。

委託者は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、第49条の規定にしたがうものとします。

(委託者の登録取消等に伴う取扱い)

第46条 委託者が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託者は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。

前項の規定にかかわらず、監督官庁がこの信託契約に関する委託者の業務を他の投資信託委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、第49条第4項に該当する場合を除き、当該投資信託委託会社と受託者との間において存続します。

(委託者の事業の譲渡および承継に伴う取扱い)

第47条 委託者は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。

委託者は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

(受託者の辞任および解任に伴う取扱い)

第48条 受託者は、委託者の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託者がその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託者または受益者は、裁判所に受託者の解任を請求することができます。受託者が辞任した場合、または裁判所が受託者を解任した場合、委託者は、第49条の規定にしたがい新受託者を選任します。

委託者が新受託者を選任できないときは、委託者はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

(信託約款の変更)

第49条 委託者は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意の上、この信託約款を変更することができます。この場合において、委託者は、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出るものとします。

委託者は、前項の変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約款に係る全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

前項の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

前項の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるとときは、第1項の信託約款の変更を行いません。

委託者は、前項の規定により信託約款の変更を行わないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約款に係る全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則と

して、公告を行いません。

(反対者の買取請求権)

第50条 第44条に規定する信託契約の解約または前条に規定する信託約款の変更を行なう場合において、第44条第3項または前条第3項の一定の期間内に委託者に対して異議を述べた受益者は、受託者に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。

(公告)

第51条 委託者が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

(信託約款に関する疑義の取扱い)

第52条 この信託約款の解釈について疑義を生じたときは、委託者と受託者との協議により定めます。

附 則

第1条 この約款において、「自動けいぞく投資契約」とは、この信託について受益権取得申込者と委託者の指定する第一種金融商品取引業者および委託者の指定する登録金融機関が締結する「自動けいぞく投資契約」と別の名称で同様の権利義務関係を規定する契約を含むものとします。この場合、「自動けいぞく投資契約」は当該別の名称に読み替えるものとします。

第2条 第40条第6項に規定する「収益調整金」は、所得税法施行令第27条の規定によるものとし、受益者ごとの信託時の受益権の価額と元本との差額をいい、原則として、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。また、同条同項に規定する「受益者ごとの信託時の受益権の価額等」とは、原則として、受益者ごとの信託時の受益権の価額をいい、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。

第3条 平成18年12月29日現在の信託約款第10条、第11条および第13条から第18条までの規定および受益権と読み替えられた受益証券に関する規定は、委託者がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合には、なおその効力を有するものとします。

上記条項により信託契約を締結します。

信託契約締結日 平成16年3月26日

東京都港区赤坂九丁目7番1号
委託者 日興アセットマネジメント株式会社

東京都中央区八重洲一丁目2番1号
受託者 みずほ信託銀行株式会社

そ の 他

用語集

投資信託の基本的な用語を簡潔にまとめたもので、特定のファンドの解説を目的としたものではありません。

委託会社(委託者)

いたくがいしや(いたくしゃ)

投資信託の運用を行なう会社です。

解約価額

かいはくかがく

投資信託を解約請求によって換金する時の価額で、基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額のことです。

解約請求(解約)

かいはくせいきゅう(かいはく)

投資信託の換金方法の一つで、受益者が販売会社を通じて委託会社に解約を請求する方法のことです。(なお、受益者が販売会社に受益権の買取りを請求する換金方法を買取請求(買取)といいます。)

繰上償還

くりあげしょうかん

信託期間を繰り上げて信託(運用)を終了させることです。

自動けいぞく投資

じどうけいぞくとうし

販売会社と受益者との契約により、税引き後の収益分配金を無手数料で自動的に再投資することをいいます。なお、販売会社により取扱いできない場合や一部異なる場合があります。

収益分配

しゅうえきぶんばい

投資信託の決算期末に、運用によって得た収益などを保有口数に応じて受益者に分配することです。また、その分配される金額を収益分配金または分配金といいます。

受益者

じゅえきしゃ

投資信託を購入した投資家のことです。

純資産総額

じゆんしさんそうがく

信託財産の総額(信託財産に属する資産を時価などで評価して得た金額)から負債総額(運用に必要な費用などのコスト)を控除した金額のことです。

償還

しょうかん

投資信託の信託契約を解約し、信託(運用)を終了することです。

信託期間

しんたくきかん

信託財産を運用する期間のことで、運用開始日(設定日)から運用終了日(償還日)までのことです。

信託財産

しんたくざいさん

投資信託が保有するすべての資産(組入有価証券、現金など)のことです。

ファンドマネージャー

投資信託の運用を行なう人(金融資産を運用する専門家)のことです。

ポートフォリオ

株式や債券など、複数の資産や銘柄の組み合わせ、あるいはそうした資産構成のことです。

目論見書

(投資信託説明書)

もくろみしょ
(とうしんたくせつめいしょ)

投資家に交付することが義務づけられている投資信託の説明資料です。投資家が投資信託を購入するにあたって知っておくべき重要な情報(特色、運用方針、信託報酬、手数料など)が記載されています。

目論見書には、お申込みの際にあらかじめまたは同時に投資家に交付される「交付目論見書」と、投資家から請求があった場合に交付される「請求目論見書」があります。

約款(信託約款)

やっかん(しんたくやっかん)


投資信託の仕組みや運営、管理などの詳細について規定したものをいいます。委託会社と受託会社は、この信託約款に基づいて信託契約を締結しています。

リスクとリターン

投資によって得られる収益をリターンといい、その収益を獲得するにあたっての不確実性をリスクといいます。一般的にリスクが高いとリターンは高く、その逆にリスクが低いとリターンは低くなります。

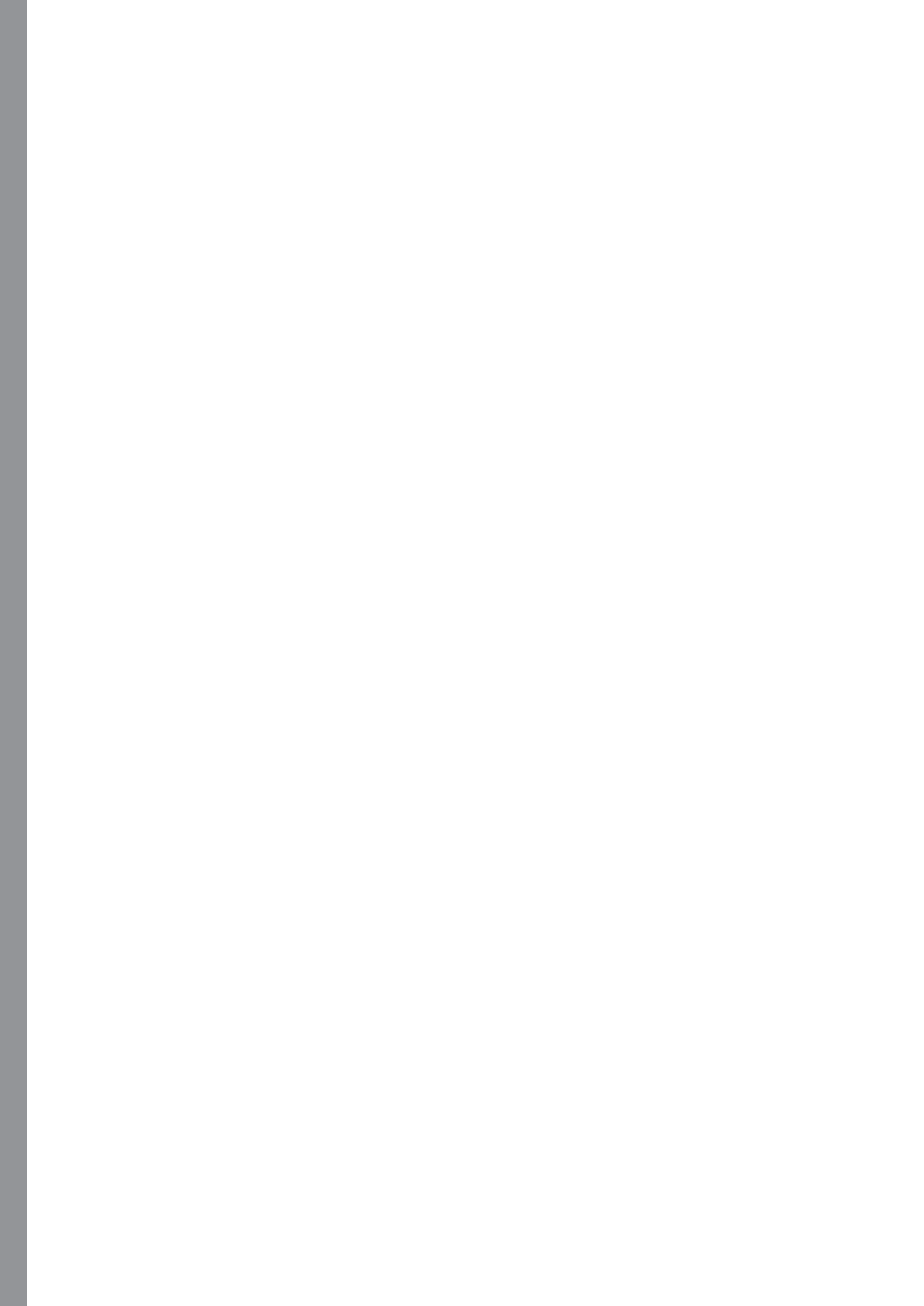
日興アセットマネジメントの照会先

ホームページアドレス <http://www.nikkoam.com/>

 **0120-25-1404**

午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。





ラサール・グローバルREITファンド (毎月分配型)

追加型投信／内外／不動産投信 自動けいぞく投資適用

設定・運用は

日興アセットマネジメント

本書は金融商品取引法第13条の規定に基づく目論見書です。

「ラサール・グローバルREITファンド（毎月分配型）」（マザーファンドを含みます。）は、主に投資信託証券に投資を行ない、投資対象とする投資信託証券は、主に不動産など値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。

投資信託は、金融機関の預金や保険契約とは商品性が異なります。

- 投資信託は、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 投資信託は、元金および利回り保証のいずれもありません。
- 投資信託をご購入されたお客様は、投資した資産の価値の減少を含むリスクを負います。

この目論見書により行なう「ラサール・グローバルREITファンド（毎月分配型）」の募集については、委託会社は、金融商品取引法（昭和23年法第25号）第5条の規定により有価証券届出書を平成22年4月5日に関東財務局長に提出しており、平成22年4月6日にその効力が発生しております。

「ラサール・グローバルREITファンド（毎月分配型）」は、課税上は株式投資信託として取り扱われます。

- 目 次 -

	頁
第1 ファンドの沿革	1
第2 手続等	1
第3 管理及び運営	4
第4 ファンドの経理状況	6
第5 設定及び解約の実績	17

第1 ファンドの沿革

平成16年3月26日 ファンドの信託契約締結、運用開始

第2 手続等

1 申込（販売）手続等

(1) 申込方法

販売会社所定の方法でお申し込みください。

(2) コースの選択

収益分配金の受取方法によって、＜分配金再投資コース＞と＜分配金受取りコース＞の2通りがあります。ただし、販売会社によって取扱コースは異なります。

<分配金再投資コース>

収益分配金を自動的に再投資するコースです。

<分配金受取りコース>

収益分配金を再投資せず、その都度受け取るコースです。

(3) 申込みの受付

販売会社の営業日に受け付けます。

(4) 取扱時間

原則として、午後3時までに、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。なお、上記時刻を過ぎた場合は、翌営業日の取扱いとなります。

(5) 取得申込不可日

販売会社の営業日であっても、取得申込日が下記のいずれかに該当する場合は、取得の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

ニューヨーク証券取引所の休業日

ニューヨークの銀行休業日

オーストラリア証券取引所の休業日

(6) 申込金額

取得申込受付日の翌営業日の基準価額に取得申込口数を乗じて得た額に、申込手数料と当該手数料に係る消費税等相当額を加算した額です。

(7) 申込単位

販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。

<委託会社の照会先>

日興アセットマネジメント株式会社

ホームページ アドレス <http://www.nikkoam.com/>

コールセンター 電話番号 0120-25-1404

午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

(8) 申込代金の支払い

取得申込者は、申込金額を販売会社が指定する日までに販売会社へお支払いください。

(9) 受付の中止および取消

委託会社は、投資対象とする投資信託証券（マザーファンドが投資対象とする投資信託証券を含みます。）への投資ができない場合、金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、取得の申込みの受付を中止すること、および既に受け付けた取得の申込みの受付を取り消すことができます。

金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場をいいます。

(10) 償還乗換

- ・受益者は、証券投資信託の償還金額（手取額）の範囲内（単位型証券投資信託については、償還金額（手取額）とその元本額のいずれか大きい額とします。）で取得する口数に係る申込手数料を徴収されない措置の適用を受けることができる場合があります。この償還乗換優遇措置を採用するか否かの選択は販売会社に任せられておりますので、販売会社により対応が異なります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・この措置の適用を受ける受益者は、販売会社から、償還金の支払いを受けたことを証する書類の提示を求められることがあります。

(11) 乗換優遇

受益者は、信託期間終了日の1年前以内などの一定の要件を満たした証券投資信託を解約または買取請求により換金した際の代金をもって、換金を行なった販売会社において、取得申込みをする場合の手数料率が割引となる措置の適用を受けることができます。この乗換優遇措置を採用するか否かの選択は販売会社に任せられておりますので、販売会社により対応が異なります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

2 換金（解約）手続等

< 解約請求による換金 >

(1) 解約の受付

販売会社の営業日に受け付けます。

(2) 取扱時間

原則として、午後3時までに、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。なお、上記時刻を過ぎた場合は、翌営業日の取扱いとなります。

(3) 解約請求不可日

販売会社の営業日であっても、解約請求日が下記のいずれかに該当する場合は、解約請求の受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

ニューヨーク証券取引所の休業日

ニューヨークの銀行休業日

オーストラリア証券取引所の休業日

(4) 解約制限

ファンドの規模および商品性格などに基づき、運用上の支障をきたさないようするため、大口の解約には受付時間制限および金額制限を行なう場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

(5) 解約価額

解約請求受付日の翌営業日の基準価額とします。

- ・基準価額につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。

< 委託会社の照会先 >

日興アセットマネジメント株式会社

ホームページ アドレス <http://www.nikkoam.com/>

コールセンター 電話番号 0120-25-1404

午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

(6) 手取額

1口当たりの手取額は、解約価額から所得税および地方税を差し引いた金額となります。

税法が改正された場合などには、税率などの課税上の取扱いが変更になる場合があります。

(7) 解約単位

1口単位

販売会社によっては、解約単位が異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

(8) 解約代金の支払い

原則として、解約請求受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

(9) 受付の中止および取消

- ・委託会社は、投資対象とする投資信託証券（マザーファンドが投資対象とする投資信託証券を含みます。）からの換金ができない場合、金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、解約請求の受付を中止すること、および既に受け付けた解約請求の受付を取り消すことができます。
- ・解約請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止当日およびその前営業日の解約請求を撤回できます。ただし、受益者がその解約請求を撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日（この計算日が解約請求を受け付けられない日であるときは、この計算日以降の最初の解約請求を受け付けることができる日とします。）に解約請求を受け付けたものとして取り扱います。

第3 管理及び運営

1 資産管理等の概要

(1) 資産の評価

基準価額の算出

- ・基準価額は委託会社の営業日において日々算出されます。
- ・基準価額とは、信託財産に属する資産を評価して得た信託財産の総額から負債総額を控除した金額（純資産総額）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。なお、ファンドは1万口あたりに換算した価額で表示することがあります。

有価証券などの評価基準

- ・信託財産に属する資産については、法令および社団法人投資信託協会規則に従って時価評価します。

<主な資産の評価方法>

マザーファンド受益証券

基準価額計算日の基準価額で評価します。

国内上場不動産投信

原則として、基準価額計算日におけるわが国の金融商品取引所の最終相場で評価します。

海外上場不動産投信

原則として、基準価額計算日に知りうる直近の日における外国金融商品市場の最終相場で評価します。

- ・外貨建資産（外国通貨表示の有価証券、預金その他の資産をいいます。）の円換算については、原則としてわが国における計算日の対顧客相場の仲値によって計算します。

基準価額の照会方法

販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。

<委託会社の照会先>

日興アセットマネジメント株式会社

ホームページ アドレス <http://www.nikkoam.com/>

コールセンター 電話番号 0120-25-1404

午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

(2) 保管

該当事項はありません。

(3) 信託期間

無期限とします（平成16年3月26日設定）。ただし、約款の規定に基づき、信託契約を解約し、信託を終了させることがあります。

(4) 計算期間

毎月6日から翌月5日までとします。ただし、各計算期間の末日が休業日のときはその翌営業日を計算期間の末日とし、その翌日より次の計算期間が開始されます。

(5) その他

信託の終了（繰上償還）

- 1) 委託会社は、次のいずれかの場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し繰上償還させることができます。

イ) 受益者の解約により受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合

ロ) 繰上償還することが受益者のために有利であると認めるとき

ハ) やむを得ない事情が発生したとき

- 2) この場合、あらかじめ、その旨およびその理由などを公告し、かつ知られたる受益者に書面を交付します。ただし、全ての受益者に書面を交付した場合は、原則として公告を行いません。
- 3) この繰上償還に異議のある受益者は、一定の期間内（1ヵ月以上で委託会社が定めます。以下同じ。）に異議を述べることができます。（後述の「異議の申立て」をご覧ください。）
- 4) 委託会社は、次のいずれかの場合には、後述の「異議の申立て」の規定は適用せず、信託契約を解約し繰上償還させます。
 - イ) 信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合で、一定の期間を設けてその公告および書面の交付が困難な場合
 - ロ) 監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたとき
 - ハ) 委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したとき（監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の委託会社に引き継ぐことを命じ、異議申立の結果、信託約款の変更が成立の場合を除きます。）
 - ニ) 受託会社が委託会社の承諾を受けてその任務を辞任した場合またはその任務に違反するなどして解任された場合に、委託会社が新受託会社を選任できないとき
- 5) 繰上償還を行なう際には、委託会社は、その旨をあらかじめ監督官庁に届け出ます。

償還金について

- ・ 償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として償還日（償還日が休業日の場合は翌営業日）から起算して5営業日まで）から受益者に支払います。
- ・ 償還金の支払いは、販売会社において行なわれます。

信託約款の変更

- 1) 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意の上、この信託約款を変更することができます。信託約款の変更を行なう際には、委託会社は、その旨をあらかじめ監督官庁に届け出ます。
- 2) この変更事項のうち、その内容が重大なものについては、あらかじめ、その旨およびその内容などを公告し、かつ知られたる受益者に書面を交付します。ただし、全ての受益者に書面を交付した場合は、原則として公告を行いません。
- 3) この信託約款の変更に異議のある受益者は、一定の期間内に異議を述べることができます。（後述の「異議の申立て」をご覧ください。）
- 4) 委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、後述の「異議の申立て」の規定を適用します。

異議の申立て

- 1) 繰上償還または信託約款の重大な変更に対して、受益者は一定の期間内に委託会社に対して所定の手続きにより異議を述べるすることができます。一定の期間内に、異議を述べた受益者の受益権口数が受益権総口数の二分の一を超えるときは、繰上償還または信託約款の変更は行ないません。
- 2) 委託会社は、繰上償還または信託約款の変更を行なわない場合は、その旨およびその理由などを公告し、かつ知られたる受益者に書面を交付します。ただし、全ての受益者に書面を交付した場合は、原則として公告を行いません。
- 3) なお、一定の期間内に、異議を述べた受益者の受益権口数が受益権総口数の二分の一以下で、繰上償還、信託約款の変更を行なう場合は、異議を述べた受益者は受託会社に対し、自己に帰属する受益権を信託財産をもって買い取るべき旨を請求できます。

公告

公告は日本経済新聞に掲載します。

運用報告書の作成

委託会社は、年2回（1月、7月）および償還後に期中の運用経過、組入有価証券の内容および有価証券の売買状況などを記載した運用報告書を作成し、あらかじめ届出を受けた住所に販売会社よりお届けします。

関係法人との契約について

- ・販売会社との募集の取扱いなどに関する契約の有効期間は契約日より1年間とします。ただし、期間満了の3ヵ月前までに、販売会社、委託会社いずれからも別段の意思表示がないときは、自動的に1年間延長されるものとし、以後も同様とします。
- ・投資顧問会社とのマザーファンドにおける運用の指図に関する権限の委託契約は、当該ファンドの信託期間終了まで存続します。ただし、投資顧問会社、委託会社が重大な契約違反を行なったとき、その他契約を継続し難い重大な事由があるときは、相手方に通知をなすことにより契約を終了することができます。

2 受益者の権利等

受益者の有する主な権利は次の通りです。

(1) 収益分配金・償還金受領権

- ・受益者は、ファンドの収益分配金・償還金を、自己に帰属する受益権の口数に応じて受領する権利を有します。
- ・ただし、受益者が収益分配金については支払開始日から5年間、償還金については支払開始日から10年間請求を行わない場合はその権利を失い、その金銭は委託会社に帰属します。

(2) 解約請求権

受益者は、自己に帰属する受益権につき販売会社を通じて、委託会社に解約の請求をすることができます。

(3) 帳簿閲覧権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内にファンドの信託財産に関する帳簿書類の閲覧を請求することができます。

第4 ファンドの経理状況

- (1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。その後の改正を含みます。)並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号。その後の改正を含みます。)に基づき作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- (2) 当ファンドの計算期間は6ヶ月未満であるため、財務諸表は6ヶ月ごとに作成しております。
- (3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、平成21年7月7日から平成22年1月5日までの特定期間と平成22年1月6日から平成22年7月5日までの特定期間の財務諸表について、あらた監査法人による監査を受けております。


独立監査人の監査報告書

平成22年2月17日


日興アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士
業務執行社員

坂本貴司 

指定社員 公認会計士
業務執行社員

和田 浩 

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているラサール・グローバルREITファンド（毎月分配型）の平成21年7月7日から平成22年1月5日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ラサール・グローバルREITファンド（毎月分配型）の平成22年1月5日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

日興アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上


独立監査人の監査報告書

平成22年8月11日


日興アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士
業務執行社員

佐々木 貴司 

指定社員 公認会計士
業務執行社員

和田 浩 

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているラサール・グローバルREITファンド（毎月分配型）の平成22年1月6日から平成22年7月5日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ラサール・グローバルREITファンド（毎月分配型）の平成22年7月5日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

日興アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

1 財務諸表

ラサール・グローバルREITファンド（毎月分配型）

(1) 貸借対照表

科目	期別	(単位：円)	
		前期 平成22年1月5日現在 金額	当期 平成22年7月5日現在 金額
資産の部			
流動資産			
コール・ローン		7,398,364,015	5,176,477,325
親投資信託受益証券		245,436,665,258	297,903,070,416
未収入金		3,116,904,694	3,628,005,498
流動資産合計		255,951,933,967	306,707,553,239
資産合計		255,951,933,967	306,707,553,239
負債の部			
流動負債			
未払収益分配金		3,507,629,675	5,104,542,012
未払解約金		4,300,728,609	371,847,004
未払委託者報酬		15,969,774	20,094,512
未払委託者報酬		283,463,660	386,677,752
その他未払費用		591,529	728,924
流動負債合計		8,108,383,247	5,853,890,204
負債合計		8,108,383,247	5,853,890,204
純資産の部			
元本等			
元本		501,089,953,696	729,220,287,565
剰余金			
期末剰余金又は期末欠損金()		253,246,402,976	428,366,624,530
(分配準備積立金)		14,099,519,404	6,333,877,616
元本等合計		247,843,550,720	300,853,663,035
純資産合計		247,843,550,720	300,853,663,035
負債純資産合計		255,951,933,967	306,707,553,239

(2) 損益及び剰余金計算書

科目	期別	(単位：円)	
		前期 自平成22年1月5日 至平成22年7月5日 金額	当期 自平成21年1月6日 至平成22年7月5日 金額
営業収益			
受取利息		1,529,113	1,603,926
有価証券売買等損益		58,635,027,599	24,362,766,633
営業収益合計		58,636,556,712	24,361,162,707
営業費用			
委託者報酬		87,223,366	116,885,731
委託者報酬		1,548,215,939	2,074,722,814
その他費用		3,275,390	4,272,863
営業費用合計		1,638,714,695	2,195,881,408
営業利益又は営業損失()		56,997,842,017	26,557,044,115
経常利益又は経常損失()		56,997,842,017	26,557,044,115
当期純利益又は当期純損失()		56,997,842,017	26,557,044,115
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額		3,179,171,000	614,328,874
期首剰余金又は期首欠損金()		201,688,634,882	253,246,402,976
剰余金増加額又は欠損金減少額		103,578,998,756	67,157,060,584
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		103,578,998,756	67,157,060,584
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		-	-
剰余金減少額又は欠損金増加額		189,516,798,633	189,186,966,930
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		-	-
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		189,516,798,633	189,186,966,930
分配金		19,438,639,234	25,918,942,219
期末剰余金又は期末欠損金()		253,246,402,976	428,366,624,530

(3) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	期 別	前 期	当 期
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	自 平成21年7月7日 至 平成22年1月5日	自 平成21年7月7日 至 平成22年1月5日	自 平成22年1月6日 至 平成22年7月5日
		親投資信託受益証券	親投資信託受益証券
		移動平均法に基づき当該親投資信託受益証券の基準価額で評価しております。	同左
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項		当ファンドの計算期間は原則として、毎月6日から翌月5日までとなっております。ただし、各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日以降の営業日である日のうち、該当日に最も近い日とし、その翌日より次の計算期間が始まるものといたしますので、当特定期間は平成21年7月7日から平成22年1月5日までとなっております。	

(貸借対照表に関する注記)

	前 期	当 期
	平成22年1月5日現在	平成22年7月5日現在
1. 期首元本額	339,611,552,643 円	501,089,953,696 円
期中追加設定元本額	354,490,900,679 円	357,894,457,422 円
期中解約元本額	193,012,499,626 円	129,764,123,553 円
2. 当特定期間末日における受益権の総数	501,089,953,696 口	729,220,287,565 口
3. 元本の欠損		元本の欠損
貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は253,246,402,976円であり、		貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は428,366,624,530円であり、

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

	前 期	当 期
	自 平成21年7月7日 至 平成22年1月5日	自 平成22年1月6日 至 平成22年7月5日
1. 信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託するために要する費用	438,155,519 円	577,282,354 円
2. 分配金の計算過程		
A 計算期末における費用控除後の配当等収益	240,148,687 円	24,827,368 円
B 費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益	0 円	0 円
C 信託約款に定める収益調整金	291,360,743,130 円	366,682,954,465 円
D 信託約款に定める分配準備積立金	0 円	13,430,492,091 円
E 分配対象収益 (A + B + C + D)	291,600,891,817 円	380,138,273,924 円
F 分配対象収益 (1口当たり)	0.7152 円	0.7208 円
G 分配金額 (1万口当たり)	7,152 円	7,208 円
H 分配金額 (1口当たり)	0.0080 円	0.0070 円
分配金に加算した外国支払税	62,844,596 円	0.0070 円
自 平成21年8月6日 至 平成21年9月7日	877,255,131 円	1,212,507,238 円
A 計算期末における費用控除後の配当等収益	0 円	0 円
B 費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益	311,541,046,441 円	398,491,170,760 円
C 信託約款に定める収益調整金	0 円	9,625,415,743 円
D 信託約款に定める分配準備積立金	0 円	409,329,093,741 円
E 分配対象収益 (A + B + C + D)	312,418,301,572 円	0.7160 円
F 分配対象収益 (1口当たり)	0.7095 円	7,160 円
G 分配金額 (1万口当たり)	7,095 円	4,001,306,975 円
H 分配金額 (1口当たり)	0.0070 円	0.0070 円
分配金に加算した外国支払税	18,170,738 円	70 円
自 平成21年9月8日 至 平成21年10月5日	694,010,316 円	16,260,454,845 円
A 計算期末における費用控除後の配当等収益	0 円	0 円
B 費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益	313,412,094,912 円	441,201,314,762 円
C 信託約款に定める収益調整金	0 円	0.7381 円
D 信託約款に定める分配準備積立金	314,106,105,228 円	7,381 円
E 分配対象収益 (A + B + C + D)	0.7043 円	4,184,187,105 円
F 分配対象収益 (1口当たり)	7,043 円	0.0070 円
G 分配金額 (1万口当たり)	7,043 円	70 円
H 分配金額 (1口当たり)	0.0070 円	0.0070 円
分配金に加算した外国支払税	41,574,451 円	913,965,909 円
自 平成21年10月6日 至 平成21年11月5日	180,092,601 円	481,611,518 円
A 計算期末における費用控除後の配当等収益	0 円	0 円
B 費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益	417,382,965,970 円	426,500,557,607 円
C 信託約款に定める収益調整金	6,537,736,388 円	18,267,790,590 円
D 信託約款に定める分配準備積立金	441,201,314,762 円	
E 分配対象収益 (A + B + C + D)	0.7381 円	
F 分配対象収益 (1口当たり)	7,381 円	
G 分配金額 (1万口当たり)	7,381 円	
H 分配金額 (1口当たり)	0.0070 円	
分配金に加算した外国支払税	913,965,909 円	
自 平成22年2月6日 至 平成22年3月5日	1,020,157,559 円	
A 計算期末における費用控除後の配当等収益	16,260,454,845 円	
B 費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益	417,382,965,970 円	
C 信託約款に定める収益調整金	6,537,736,388 円	
D 信託約款に定める分配準備積立金	441,201,314,762 円	
E 分配対象収益 (A + B + C + D)	0.7381 円	
F 分配対象収益 (1口当たり)	7,381 円	
G 分配金額 (1万口当たり)	7,381 円	
H 分配金額 (1口当たり)	0.0070 円	
分配金に加算した外国支払税	913,965,909 円	
自 平成22年4月6日 至 平成22年5月5日	913,965,909 円	
A 計算期末における費用控除後の配当等収益	481,611,518 円	
B 費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益	426,500,557,607 円	
C 信託約款に定める収益調整金	18,267,790,590 円	
D 信託約款に定める分配準備積立金		

(金融商品に関する注記)

(追加情報)

当期より、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日)を適用しております。

金融商品の状況に関する事項

	当期 自 平成22年1月6日 至 平成22年7月5日
金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託として、有価証券、デリバティブ取引等の金融商品の運用を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが運用する主な有価証券は、「重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載の有価証券等であり、全て売買目的で保有しております。また、主なデリバティブ取引には、為替予約等があり、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するために行うことができます。当該有価証券及びデリバティブ取引には、性質に応じてそれぞれ価格変動リスク、流動性リスク、信用リスク等があります。
金融商品に係るリスク管理体制	運用部門、営業部門と独立した組織であるリスクマネジメント部を設置し、全社的なリスク管理活動のモニタリング、指導の一元化を図っております。

金融商品の時価等に関する事項

	当期 自 平成22年1月6日 至 平成22年7月5日
貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありませぬ。
時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 (2) デリバティブ取引 該当事項はありません。 (3) 上記以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の時価を帳簿価額としております。 金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によつた場合、当該価額が異なることもありませぬ。
金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	

B 費用控除後の繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益	0 円	446,163,925,624 円
C 信託約款に定める収益調整金	324,412,752,426 円	0,7335 円
D 信託約款に定める分配準備積立金	0 円	7,335 円
E 信託約款に定める収益調整金	324,592,845,027 円	4,257,583,007 円
F 分配対象収益(A+B+C+D)	0,6978 円	0,0070 円
G 分配対象収益(1口当たり)	6,978 円	70 円
H 分配金額	3,189,330,318 円	自 平成22年5月7日 至 平成22年6月7日
A 計算期末における費用控除後の有価証券売買等損益	0,0070 円	58,940,475 円
B 費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益	66,369,390 円	0 円
C 信託約款に定める収益調整金	自 平成21年11月6日 至 平成21年12月7日	470,825,273,351 円
D 信託約款に定める分配準備積立金	653,816,994 円	14,981,830,133 円
E 分配対象収益(A+B+C+D)	653,816,994 円	485,866,043,959 円
F 分配対象収益(1口当たり)	12,820,443,668 円	0,7267 円
G 分配金額	338,087,605,762 円	7,267 円
H 分配金額	351,561,866,424 円	4,680,127,971 円
A 計算期末における費用控除後の有価証券売買等損益	0,7186 円	0,0070 円
B 費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益	7,186 円	70 円
C 信託約款に定める収益調整金	3,399,356,100 円	自 平成22年6月8日 至 平成22年7月5日
D 信託約款に定める分配準備積立金	0,0070 円	1,249,455,034 円
E 分配対象収益(A+B+C+D)	0,0070 円	1,249,455,034 円
F 分配対象収益(1口当たり)	0,0070 円	0 円
G 分配金額	24,973,207 円	514,712,893,283 円
H 分配金額	自 平成21年12月8日 至 平成22年1月5日	10,188,964,594 円
A 計算期末における費用控除後の有価証券売買等損益	1,122,501,011 円	526,151,312,911 円
B 費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益	6,883,224,598 円	0,7215 円
C 信託約款に定める収益調整金	347,087,585,366 円	7,215 円
D 信託約款に定める分配準備積立金	9,601,423,470 円	5,104,542,012 円
E 分配対象収益(A+B+C+D)	364,694,734,445 円	0,0070 円
F 分配対象収益(1口当たり)	0,7278 円	70 円
G 分配金額	7,278 円	7,278 円
H 分配金額	3,507,629,675 円	0,0070 円
A 計算期末における費用控除後の有価証券売買等損益	0,0070 円	70 円

(有価証券に関する注記)

前期(自 平成 21 年 7 月 7 日 至 平成 22 年 1 月 5 日)

売買目的有価証券

種 類	貸借対照表計上額	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額	(単位：円)
親投資信託受益証券	245,436,665,258	8,215,174,941	
合計	245,436,665,258	8,215,174,941	

当期(自 平成 22 年 1 月 6 日 至 平成 22 年 7 月 5 日)

売買目的有価証券

種 類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額	(単位：円)
親投資信託受益証券	9,861,141,669	
合計	9,861,141,669	

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(1口当たり情報)

前期	当期
平成22年1月5日現在	平成22年7月5日現在
1口当たり純資産額	1口当たり純資産額
(1万口当たり純資産額)	(1万口当たり純資産額)
0.4946 円	0.4126 円
(4,946 円)	(4,126 円)

(4) 附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

(親投資信託受益証券)

種 類	銘柄	券面総額	評価額	備 考
親投資信託受益証券	世界REITマザーファンド	357,240,760,782	297,903,070,416	
合計		357,240,760,782	297,903,070,416	

(注) 親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

(参考)

当ファンドは「世界REITマザーファンド」を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、同親投資信託です。なお、同親投資信託の状況は次の通りです。

「世界REITマザーファンド」の状況

なお、以下に記載した情報は監査の対象外であります。

世界REITマザーファンド

(1) 貸借対照表

科目	対象年月日		(単位：円)
	平成22年1月5日現在	平成22年7月5日現在	
資産の部	金額	金額	
流動資産			
預金	1,621,498,865	1,774,311,486	
コール・ローン	3,399,006,282	10,270,888,062	
投資証券	244,496,888,980	291,535,728,058	
派生商品評価勘定	163,400	-	
未収入金	636,386,176	1,990,106,439	
未収配当金	1,263,544,147	1,317,327,370	
流動資産合計	251,417,487,850	306,888,361,415	
資産合計	251,417,487,850	306,888,361,415	
負債の部			
流動負債			
派生商品評価勘定	-	12,385,000	
未払金	825,468,140	3,704,080,507	
未払解約金	3,146,904,694	3,628,005,498	
流動負債合計	3,972,372,834	7,344,471,005	
負債合計	3,972,372,834	7,344,471,005	
純資産の部			
元本等	272,598,275,825	359,228,136,521	
剰余金			
剰余金又は欠損金()	25,153,160,809	59,684,246,111	
元本等合計	247,445,115,016	299,543,890,410	
純資産合計	247,445,115,016	299,543,890,410	
負債純資産合計	251,417,487,850	306,888,361,415	

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	自 平成21年7月7日 至 平成22年1月5日	自 平成22年1月6日 至 平成22年7月5日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>投資証券は移動平均法に基づき、以下のとおり原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等の上場されている有価証券</p> <p>金融商品取引所等の上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等における計算期間末日の最終相場（外貨建証券の場合は計算期間末日において知りうる直近の日の最終相場）で評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等の上場されていない有価証券</p> <p>当該有価証券については、原則として、日本証券業協会等発表の店頭売買参考統計値（平均値）等、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売買相場は使用しない）又は価格提供会社の提供した価額で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入りできなかった有価証券</p> <p>適正な評価額を入手できなかった場合は、入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額もしくは受託者と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p>	<p>投資証券は移動平均法に基づき、以下のとおり原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等の上場されている有価証券</p> <p>同左</p> <p>(2) 金融商品取引所等の上場されていない有価証券</p> <p>同左</p> <p>(3) 時価が入りできなかった有価証券</p> <p>同左</p>
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引	為替予約取引
3. その他財務諸表作成のための基となる重要な事項	<p>原則として、わが国における計算期間末日の対顧客先物売買相場の仲値で評価しております。</p> <p>外貨建取引等の処理基準</p> <p>「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条及び第61条にしたがって処理しております。</p>	<p>同左</p> <p>外貨建取引等の処理基準</p> <p>同左</p>

(貸借対照表に関する注記)

	平成21年7月7日現在	平成22年7月5日現在
1. 期首	平成21年7月7日	平成22年7月5日現在
1. 期首元本額	205,047,439,313 円	272,598,275,825 円
期首からの追加設定元本額	96,294,751,478 円	117,530,147,542 円
期首からの解約元本額	28,743,914,966 円	30,900,286,846 円
平成22年1月5日現在の元本の内訳		平成22年7月5日現在の元本の内訳
ラサール・グローバルREITファンド（毎月分配型）	270,394,034,657 円	357,240,760,782 円
プロフェッショナル・ステージ	1,143,239,839 円	974,525,297 円
日興ワールドREITファンド	1,061,001,329 円	1,012,850,442 円
(合計)	272,598,275,825 円	359,228,136,521 円
2. 本報告書における開示対象ファンドの特定期間末日における当該親投資信託の受益権の総数	272,598,275,825 口	359,228,136,521 口
3. 元本の欠損		
貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は25,153,160,809円であります。		貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は59,684,246,111円であります。
当該親投資信託受託証券を投資対象とする投資信託ごとの元本額		

(金融商品に関する注記)

(追加情報)

当期より、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第 10 号 平成 20 年 3 月 10 日）及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第 19 号 平成 20 年 3 月 10 日）を適用しております。

金融商品の状況に関する事項

	自 平成22年1月6日 至 平成22年7月5日
金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託として、有価証券、デリバティブ取引等の金融商品の運用を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが運用する主な有価証券は、「重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載の有価証券等であり、全て売買目的で保有しております。また、主なデリバティブ取引には、為替予約等があり、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するために行うことができます。当該有価証券及びデリバティブ取引には、性質に応じてそれぞれ価格変動リスク、流動性リスク、信用リスク等があります。
金融商品に係るリスク管理体制	運用部門、営業部門と独立した組織であるリスクマネジメント部を設置し、全社的なリスク管理活動のモニタリング、指導の一元化を図っております。

金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びその差額	自 平成22年1月6日 至 平成22年7月5日
時価の算定方法	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありませぬ。 (1) 有価証券 売買目的有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 (2) デリバティブ取引 「デリバティブ取引等に関する注記」に記載しております。 (3) 上記以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の時価を帳簿価額としております。 金融商品の時価については、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によつた場合、当該価額が異なることもあります。

(有価証券に関する注記)

対象期間 (自 平成 21 年 7 月 7 日 至 平成 22 年 1 月 5 日)

売買目的有価証券

種 類	貸借対照表計上額	当計算期間の損益に含まれた評価差額	(単位：円)
投資証券	244,496,888,980	47,093,235,418	
合計	244,496,888,980	47,093,235,418	

対象期間 (自 平成 22 年 1 月 6 日 至 平成 22 年 7 月 5 日)

売買目的有価証券

種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額	(単位：円)
投資証券	8,019,558,688	
合計	8,019,558,688	

(注) 当計算期間の損益に含まれた評価差額は、競投投資信託の期首日から本報告書における開示対象ファンドの期末日までの期間に対応する金額であります。

(デリバティブ取引等に関する注記)

取引の状況に関する事項

取引の内容	自 平成21年7月7日 至 平成22年1月5日
取引の利用目的及び取引に対する取組方針	当投資信託が利用することができているデリバティブ取引等は為替予約取引であります。 市場動向を勘案し、デリバティブ取引を行う方針であります。また信託財産に属する資産の安定的な収益の確保を図る目的で行うことができます。
取引に係るリスクの内容	デリバティブ取引には、為替等の市場価格が変動することによって発生するリスクがあります。
取引に係るリスク管理体制	デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限および取引限度額等を定めた規定に従って、運用部門が執行し、リスク管理業務担当部門が日常的にこれを監視しております。

取引の時価等に関する事項

(通貨関連)

区 分	種 類	平成22年1月5日現在		時 価	評 価 損 益
		契 約 額	等 価		
市場	為替予約取引				
取引	売建	251,115,400	-	250,952,000	163,400
以外の取引	シンガポールドル	251,115,400	-	250,952,000	163,400
合計		251,115,400	-	250,952,000	163,400

(単位：円)

区 分	種 類	平成22年7月5日現在		時 価	評 価 損 益
		契 約 額	等 価		
市場	為替予約取引				
取引	買建	2,201,115,000	-	2,188,730,000	12,385,000
以外	アメリカドル	704,720,000	-	703,120,000	1,600,000
の取引	オーストラリアドル	598,624,000	-	591,680,000	6,944,000
取引	香港ドル	169,815,000	-	169,050,000	765,000
の取引	シンガポールドル	507,296,000	-	504,560,000	2,736,000
合計	ユーロ	220,660,000	-	220,320,000	340,000
		2,201,115,000	-	2,188,730,000	12,385,000

(注) 時価の算定方法

1. 計算期間末日に對顧客先物相場場の仲値が発表されている外貨については、以下のようには評価しています。
 計算期間末日に對顧客先物相場場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しています。
 ・計算期間末日に對顧客先物相場場が発表されていない場合は、以下の方法によつています。
 ・計算期間末日に對顧客先物相場場の仲値をもちに計算しています。
 ・計算期間末日に對顧客先物相場場の仲値が発表されていない場合は、当該日に最も近い発表されている對顧客先物相場場の仲値を用います。
 ・計算期間末日に對顧客先物相場場の仲値が発表されている外貨については、計算期間末日の對顧客相場場の仲値で評価しています。

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(1口当たり情報)

	平成22年1月5日現在	平成22年7月5日現在
1口当たり純資産額	0.9077 円	1口当たり純資産額
(1万口当たり純資産額)	(9,077 円)	(1万口当たり純資産額)
		0.8339 円
		(8,339 円)

(3) 附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

(国内投資証券)

銘柄	銘柄	評価額	備考
8951	日本ビルファンド投資法人 投資証券	9,710	7,195,110,000
8952	ジャパソールエステイト投資法人 投資証券	9,139	6,826,833,000
8953	日本リテールファンド投資法人 投資証券	12,898	1,471,661,800
8957	東急リアル・エステイト投資法人 投資証券	3,468	1,626,492,000
8964	フロンティア不動産投資法人 投資証券	1,900	1,155,200,000
8967	日本ロジスティクスファンド投資法人 投資証券	2,245	1,573,745,000
	合計	39,360	19,849,041,800

(単位：円)

(注) 投資証券における券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

(外国投資証券)

銘柄	銘柄	評価額	備考
00163710	AMB PROPERTY CORPORATION	3,294,663	74,953,583.25
00423910	ACADIA REALTY TRUST	512,718	8,526,500.34
05348410	AVALONBAY COMMUNITIES INC	1,606,609	146,683,401.70
09063910	BIOMED REALTY TRUST INC	2,607,354	40,283,619.30
10112110	BOSTON PROPERTIES INC	1,426,352	99,416,734.40
13313110	CAMDEN PROPERTY TRUST	938,290	37,625,429.00
22002710	CORPORATE OFFICE PROPERTIES TRUST	1,180,562	42,972,456.80
25278430	DIAMONDROCK HOSPITALITY CO	2,120,374	17,556,696.72
25386810	DIGITAL REALTY TRUST INC	657,820	37,469,427.20
25960P10	DOUGLAS EMMETT INC	3,105,384	42,450,599.28
27727610	EASTGROUP PROPERTIES INC	406,127	14,043,871.66
29476L10	EQUITY RESIDENTIAL-REIT	2,341,363	95,223,233.21
29717810	ESSEX PROPERTY TRUST INC	362,090	34,427,517.20
30225T10	EXTRA SPACE STORAGE INC	1,350,868	18,196,191.96
31374720	FEDERAL REALTY INVESTMENT TRUST-REIT	1,229,649	85,940,168.61
42191510	HCP INC	553,434	17,571,529.50
42194610	HEALTHCARE REALTY TRUST INC	545,162	12,108,048.02
44107P10	HOST HOTELS & RESORTS INC	5,516,807	72,104,667.49
49427E10	KILLROY REALTY CORPORATION	1,174,734	33,479,919.00
49446R10	KIMCO REALTY CORPORATION	195,244	2,544,029.32
74341010	PROLOGIS	2,448,379	23,675,824.93
74460D10	PUBLIC STORAGE	1,565,049	135,658,447.32
75884910	REGENCY CENTERS CORPORATION	1,753,508	58,304,141.00
78440X10	SL GREEN REALTY CORP	745,230	38,908,458.30
81721M10	SENIOR HOUSING PROPERTIES TRUST	3,024,973	60,196,962.70
82880610	SIMON PROPERTY GROUP INC-REIT	2,847,981	225,218,337.48
87666410	TAUBMAN CENTERS INC	1,056,744	38,687,397.84
91274F10	U+STORE-IT TRUST	1,089,115	7,852,519.15
92276F10	VENTAS INC	2,260,806	104,914,724.46
92904210	VORNADO REALTY TRUST	2,032,450	144,568,168.50
アメリカドル 計		49,949,639	1,771,562,605.64
	(邦貨換算額)		(155,720,353,036)

(単位：アメリカドル)

外国投資証券(カナダドル)

(単位：カナダドル)

銘柄	銘柄	評価額	備考
NPR-U	NORTHERN PROPERTY REAL ESTATE INVESTMENT TRUST	309,835	7,073,533.05
REF-U	CANADIAN REAL ESTATE INVESTMENT TRUST	1,726,716	48,848,795.64
REI-U	RIOCAN REAL ESTATE INVESTMENT TRUST	1,653,473	31,597,869.03
カナダドル 計		3,690,024	87,520,197.72
	(邦貨換算額)		(7,240,545,957)

外国投資証券(オーストラリアドル)

(単位：オーストラリアドル)

銘柄	銘柄	評価額	備考
CPA	COMMONWEALTH PROPERTY OFFICE	35,117,974	33,713,255.04
DRT	DEXUS PROPERTY GROUP	115,814,518	89,756,251.45
GAN	CFS RETAIL PROPERTY TRUST	9,057,775	17,481,505.75
GPT	GPT GROUP	18,706,674	52,939,887.42
MGR	MIRVAC GROUP	44,464,815	57,581,935.42
MOF	CHARTER HALL OFFICE REIT	87,849,387	21,962,346.75
SGP	STOCKLAND	4,787,405	17,857,020.65
MOC	WESTFIELD GROUP	15,170,453	185,382,935.66
オーストラリアドル 計		330,969,001	476,675,138.14
	(邦貨換算額)		(35,259,659,968)

外国投資証券(イギリスポンド)

(単位：イギリスポンド)

銘柄	銘柄	評価額	備考
BLND	BRITISH LAND COMPANY PLC	11,173,346	48,749,308.59
BVG	BIG YELLOW GROUP PLC	3,309,738	9,849,780.28
DLN	DERWENT LONDON PLC	1,489,199	18,302,255.71
HMSO	HAMMERSON PLC	8,950,336	30,135,781.31
LAND	LAND SECURITIES GROUP PLC	1,987,656	10,981,922.84
NETP	METRIC PROPERTY INVESTMENTS PLC	2,561,284	2,740,573.88
SHB	SHAFTESBURY PLC	4,149,333	14,584,188.83
SLOU	SEGRO PLC	6,080,874	15,500,147.82
イギリスポンド 計		39,701,766	150,803,929.26
	(邦貨換算額)		(20,105,179,849)

外国投資証券(香港ドル)

(単位：香港ドル)

銘柄	銘柄	評価額	備考
LINK	LINK REIT	38,020,829	764,218,662.90
香港ドル 計		38,020,829	764,218,662.90
	(邦貨換算額)		(8,620,386,518)

外国投資証券(シンガポールドル)

(単位：シンガポールドル)

銘柄	銘柄	評価額	備考
AREIT	ASCENDAS REAL ESTATE INVESTMENT TRUST	40,141,217	75,465,487.96
SUN	SUNTEC REIT	31,594,643	42,652,768.05
シンガポールドル 計		71,735,860	118,118,256.01
	(邦貨換算額)		(7,450,899,589)

外国投資証券(ユーロ)

(単位：ユーロ)

銘柄	銘柄	評価額	備考
AOX	ALSTRIA OFFICE REIT-AG	500,458	4,006,666.74
BEFB	BEFINIMO S.C.A.	91,508	5,064,052.72
COFIT	COFINIMO	127,216	11,552,484.96
CORA	CORIO NV	1,110,459	43,541,097.39
LI	KLEPPIERRE	1,596,735	35,152,121.02
MERY	MERCIALYS	791,545	18,126,380.50

SCHIP	EUROCOMMERCIAL	1,202,853	31,226,063.88
SIL	SILIC	140,112	11,099,672.64
UL	UNIBAIL-RODANCO SE	1,036,254	134,090,504.10
VASTN	VASTNED RETAIL NV	577,033	23,493,898.59
WDP	WAREHOUSES DE PAUV SCA	156,911	4,942,696.50
WEHA	WERELDHAVE NV	270,493	16,178,186.33
コーロ計		7,603,577	338,473,825.37
(邦貨換算額)			(37,289,661,341)

総合計		(271,686,686,258)	291,535,728,058
-----	--	-------------------	-----------------

(単位：円)

(注1) 総合計の()内の金額は外国投資証券の邦貨換算額合計であります。
(注2) 投資証券における券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

外貨建価値証券の内訳

通貨	銘柄数	組入投資証券時価比率 (%)	合計額に対する比率 (%)
アメリカドル	投資証券 30銘柄	100.0	57.3
カナダドル	投資証券 3銘柄	100.0	2.7
オーストラリアドル	投資証券 8銘柄	100.0	13.0
イギリスポンド	投資証券 8銘柄	100.0	7.4
香港ドル	投資証券 1銘柄	100.0	3.2
シンガポールドル	投資証券 2銘柄	100.0	2.7
コーロ	投資証券 12銘柄	100.0	13.7

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「注記表(デリバティブ取引等)に関する注記)」に記載しております。

2 ファンドの現況

以下のファンドの現況は平成 22 年 7 月 30 日現在です。

純資産額計算書

資産総額	353,957,459,113	円
負債総額	1,177,572,587	円
純資産総額 (-)	352,779,886,526	円
発行済数量	780,384,420,676	口
1 単位当たり純資産額 (/)	0.4521	円

(参考) 世界 R E I T マザーファンド

純資産額計算書

資産総額	355,332,484,228	円
負債総額	5,044,145,185	円
純資産総額 (-)	350,288,339,043	円
発行済数量	382,622,623,676	口
1 単位当たり純資産額 (/)	0.9155	円


第 5 設定及び解約の実績

	設定数量 (口)	解約数量 (口)
第1特定期間 (2004年3月26日 ~ 2004年7月5日)	17,423,182,300	109,228,769
第2特定期間 (2004年7月6日 ~ 2005年1月5日)	16,884,276,244	9,152,257,606
第3特定期間 (2005年1月6日 ~ 2005年7月5日)	13,197,755,858	11,363,866,037
第4特定期間 (2005年7月6日 ~ 2006年1月5日)	5,763,611,017	10,267,816,706
第5特定期間 (2006年1月6日 ~ 2006年7月5日)	7,244,759,917	5,883,675,244
第6特定期間 (2006年7月6日 ~ 2007年1月5日)	6,588,977,904	5,015,609,598
第7特定期間 (2007年1月6日 ~ 2007年7月5日)	4,835,968,355	5,654,413,584
第8特定期間 (2007年7月6日 ~ 2008年1月7日)	1,835,764,082	4,743,838,759
第9特定期間 (2008年1月8日 ~ 2008年7月7日)	11,696,675,088	2,380,460,556
第10特定期間 (2008年7月8日 ~ 2009年1月5日)	30,140,858,219	2,743,707,188
第11特定期間 (2009年1月6日 ~ 2009年7月6日)	299,504,316,918	18,189,719,212
第12特定期間 (2009年7月7日 ~ 2010年1月5日)	354,490,900,679	193,012,499,626
第13特定期間 (2010年1月6日 ~ 2010年7月5日)	357,894,457,422	129,764,123,553

(注) 第1特定期間の設定数量には、当初設定数量を含みます。

日興アセットマネジメントの照会先

ホームページアドレス <http://www.nikkoam.com/>


 **0120-25-1404**

午前9時～午後5時 土、日、祝・休日を除きます。



日興アセットマネジメントの照会先

ホームページアドレス <http://www.nikkoam.com/>

 **0120-25-1404**

午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

